

III 精神障害者調査

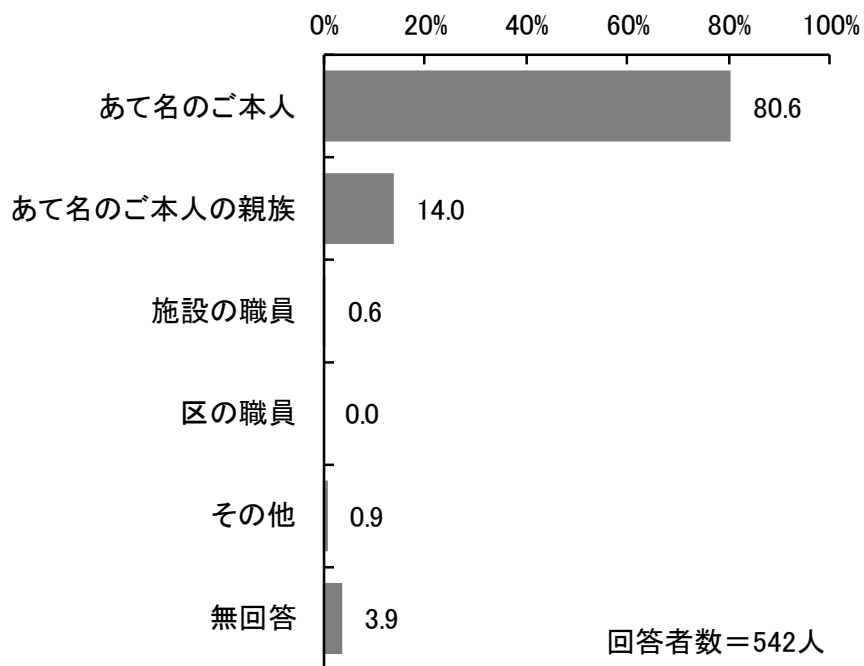
1. 調査票記入者について

(1) 調査票記入者

問 1 この調査票に記入された方はどなたですか。(○は1つだけ)

調査票記入者は、「あて名のご本人」が80.6%で最も高く、次いで「あて名のご本人の親族」14.0%となっている。

図表 III-1 調査票記入者



2. 調査対象者について

(1) ご本人の性別と年齢

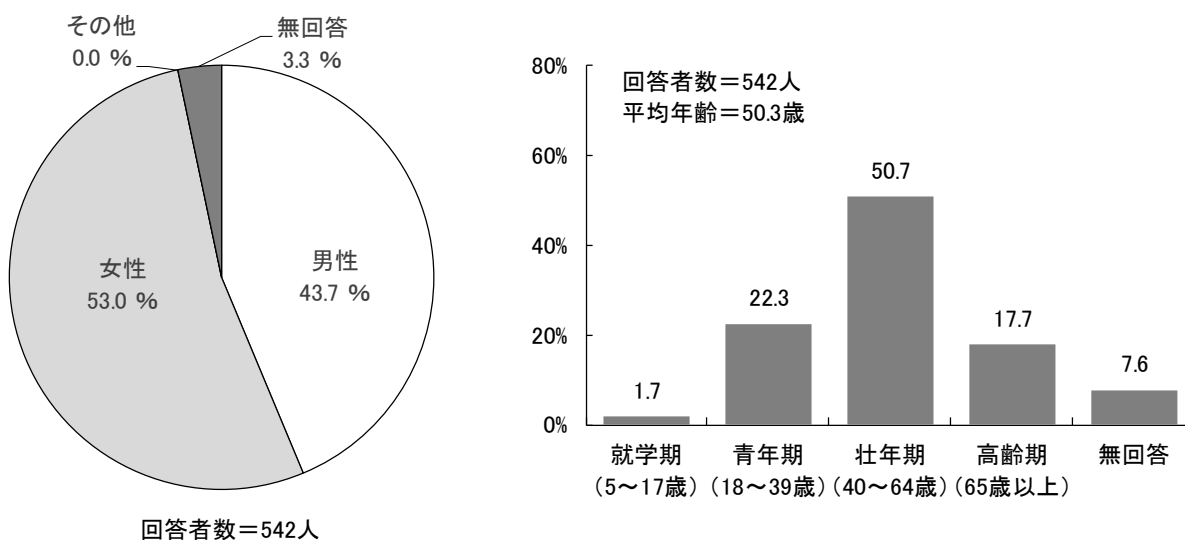
問2 あなたの性別と年齢をお答えください。(令和4年8月1日現在)

性別は、「男性」が43.7%、「女性」が53.0%となっている。

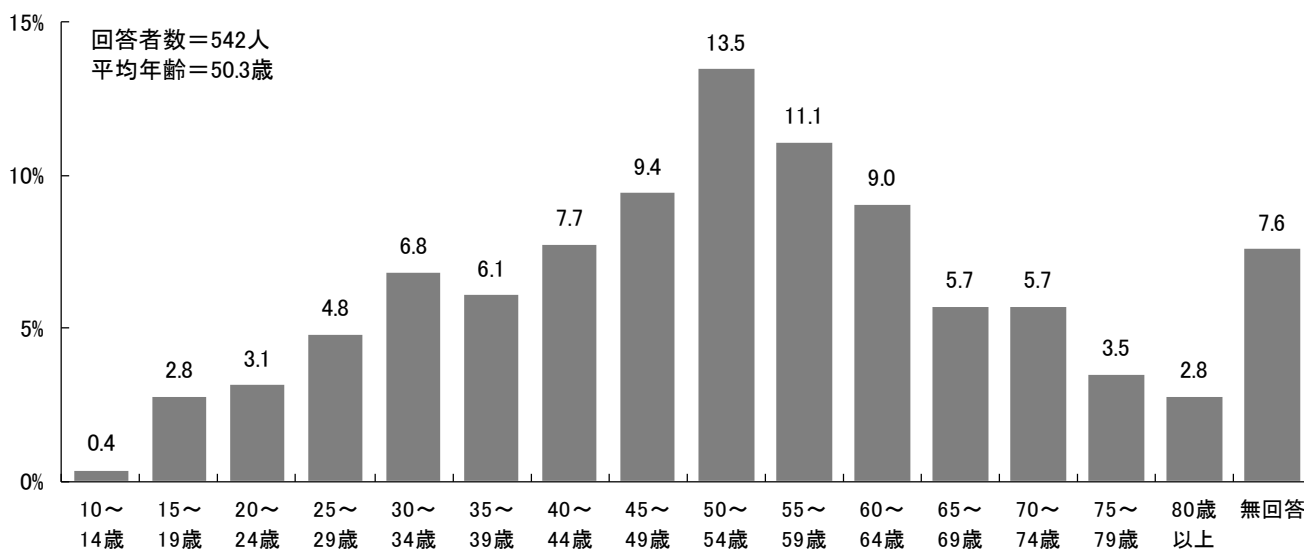
年齢は、「50～54歳」が13.5%で最も高く、次いで「55～59歳」11.1%、「45～49歳」9.4%となっている。

平均年齢は、50.3歳である。

図表 III-2 ご本人の性別と年齢



図表 III-3 ご本人の年齢（5歳きざみ）

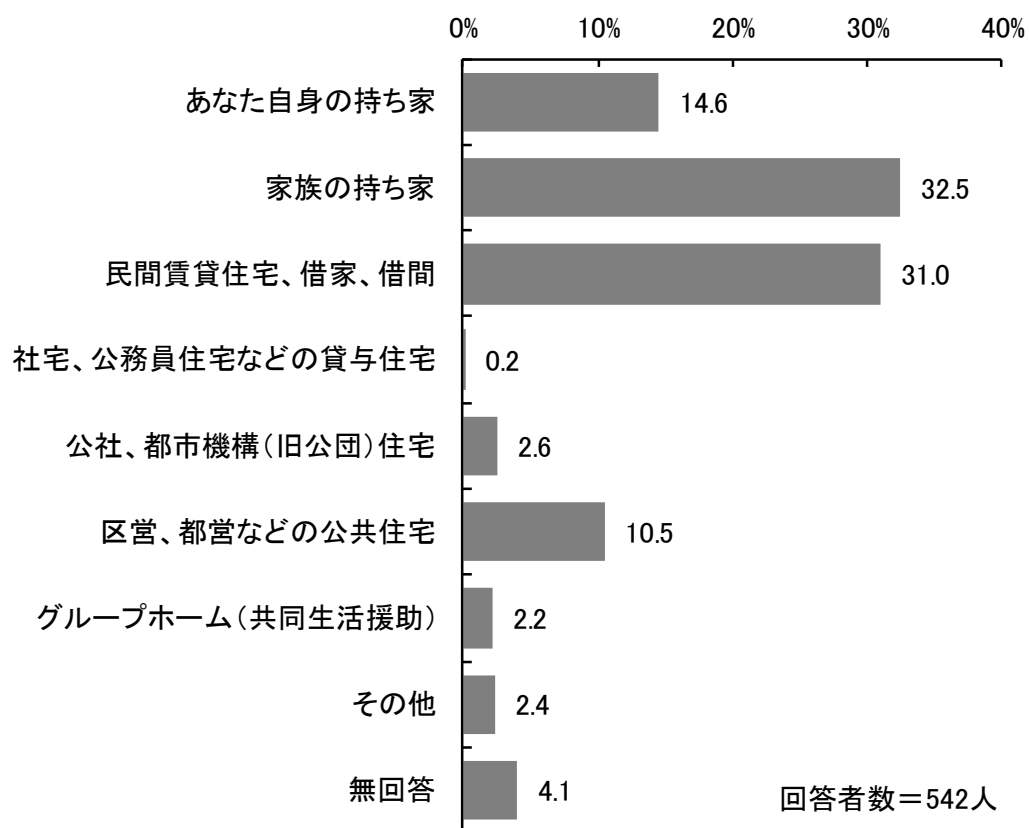


(2) 住居形態

問3 あなたのお住まいの種類は次のどれですか。(○は1つだけ)

住居形態は、「家族の持ち家」が32.5%で最も高く、次いで「民間賃貸住宅、借家、借間」31.0%、「あなた自身の持ち家」14.6%、「区営、都営などの公共住宅」10.5%となっている。

図表 III-4 住居形態



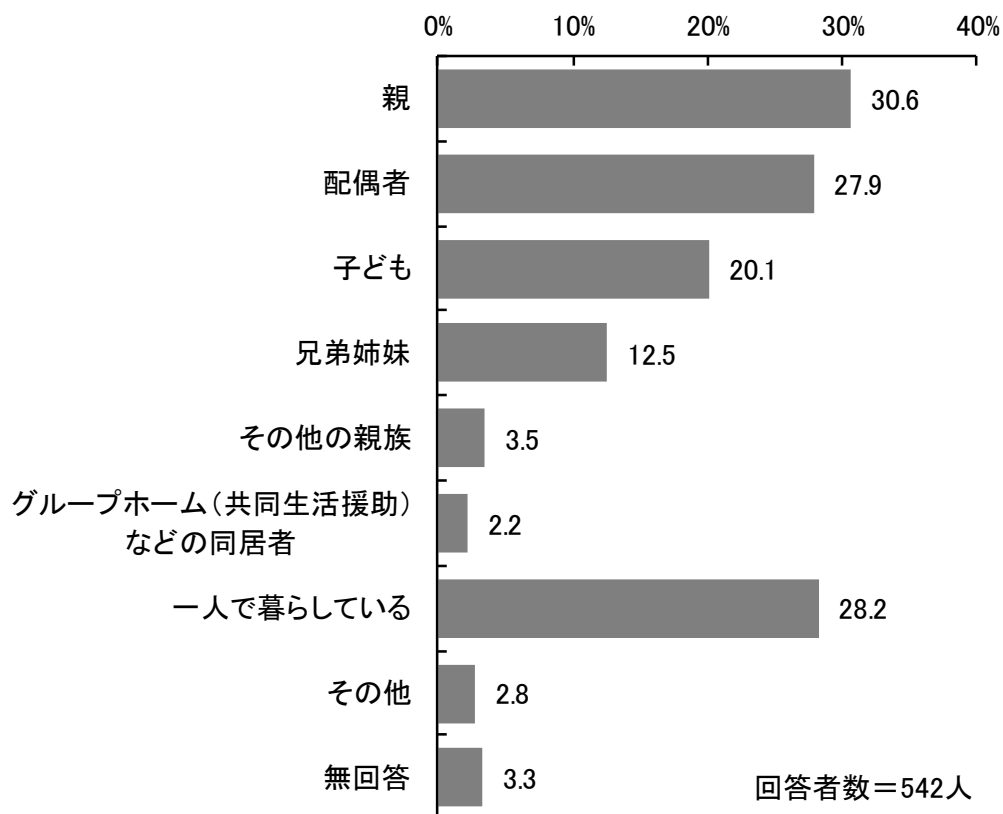
(3) 同居家族

問4 あなたは現在どなたと一緒に暮らしていますか。(〇はあてはまるものすべて)

同居家族は、『なんらかの家族・親族と暮らしている方』が63.5%となっている。そのうち、最も多い同居家族は「親」、次いで「配偶者」である。

一方、「一人で暮らしている」は28.2%である。

図表 III-5 同居家族



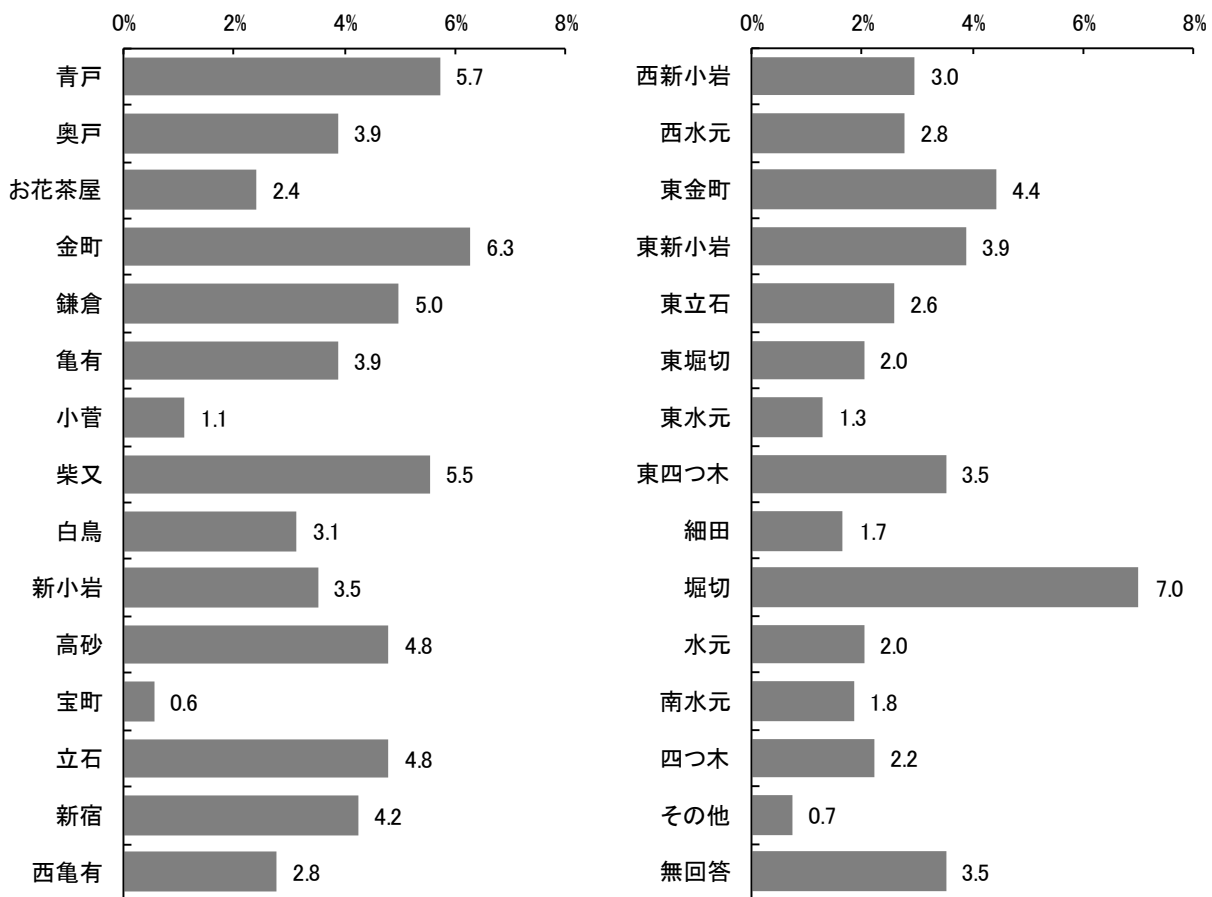
※『なんらかの家族・親族と暮らしている方』=100-(「グループホームなどの同居人」+「一人で暮らしている」+「その他」+無回答)

(4) 居住地域

問5 あなたのお住まいの地域はどちらですか。(〇は1つだけ)

居住地域は、「堀切」7.0%、「金町」6.3%、「青戸」5.7%がやや高くなっている。

図表 III-6 居住地域



回答者数=542人

3. 援護者（支援者）について

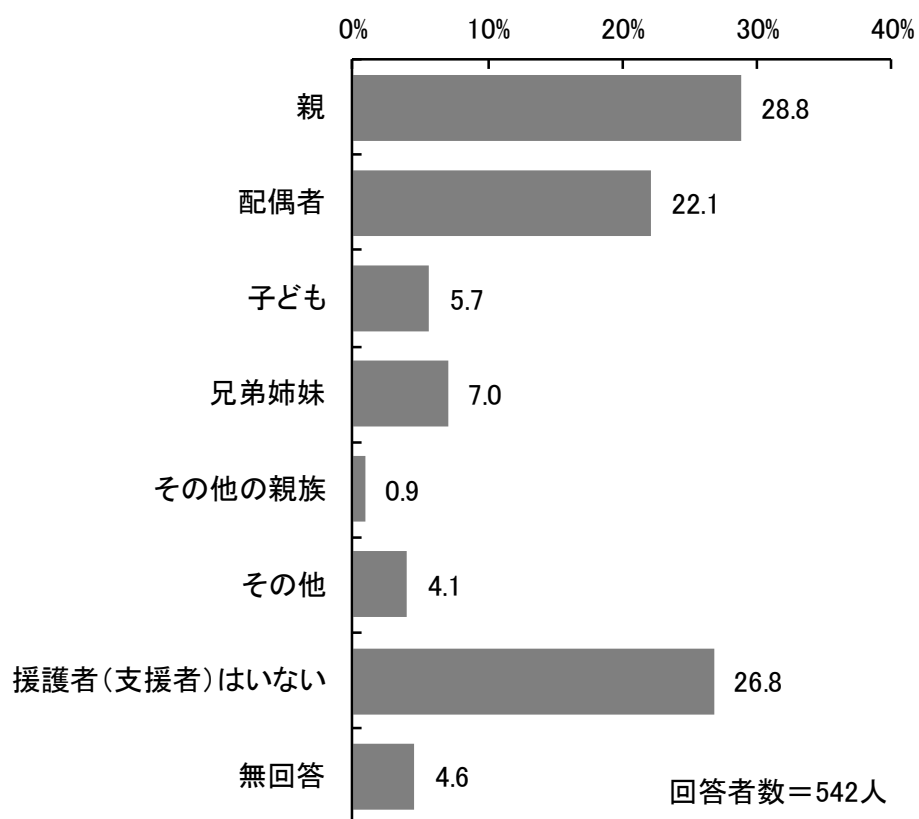
（1）主な援護者（支援者）

問6 あなたの主な援護者（支援者）はどなたですか。（○は1つだけ）

主な援護者（支援者）は、「親」が28.8%で最も高く、次いで「配偶者」22.1%となっている。

一方、「援護者（支援者）はいない」は26.8%である。

図表 III-7 主な援護者（支援者）



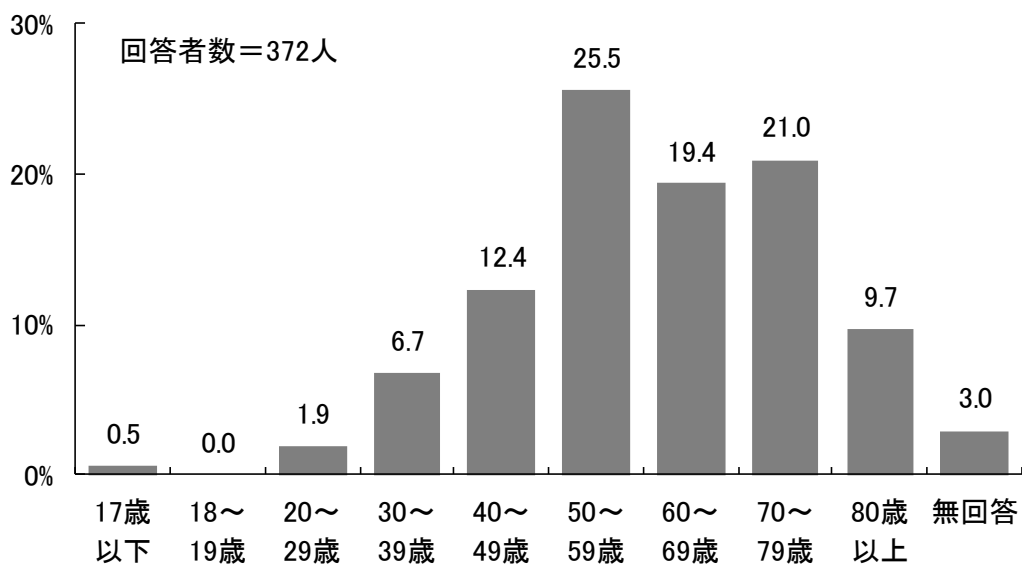
(2) 主な援護者（支援者）の年齢

★ 問6-①は、問6で「1.親」「2.配偶者」「3.子ども」「4.兄弟姉妹」「5.その他の親族」「6.その他」のいずれかに○をした方

問6-① 主な援護者（支援者）の年齢は、おいくつぐらいですか。（○は1つだけ）

主な援護者（支援者）がいると回答した方の主な援護者（支援者）の年齢は、「50～59歳」が25.5%で最も高く、次いで「70～79歳」21.0%、「60～69歳」19.4%となっている。

図表 III-8 主な援護者（支援者）の年齢



4. 日常生活について

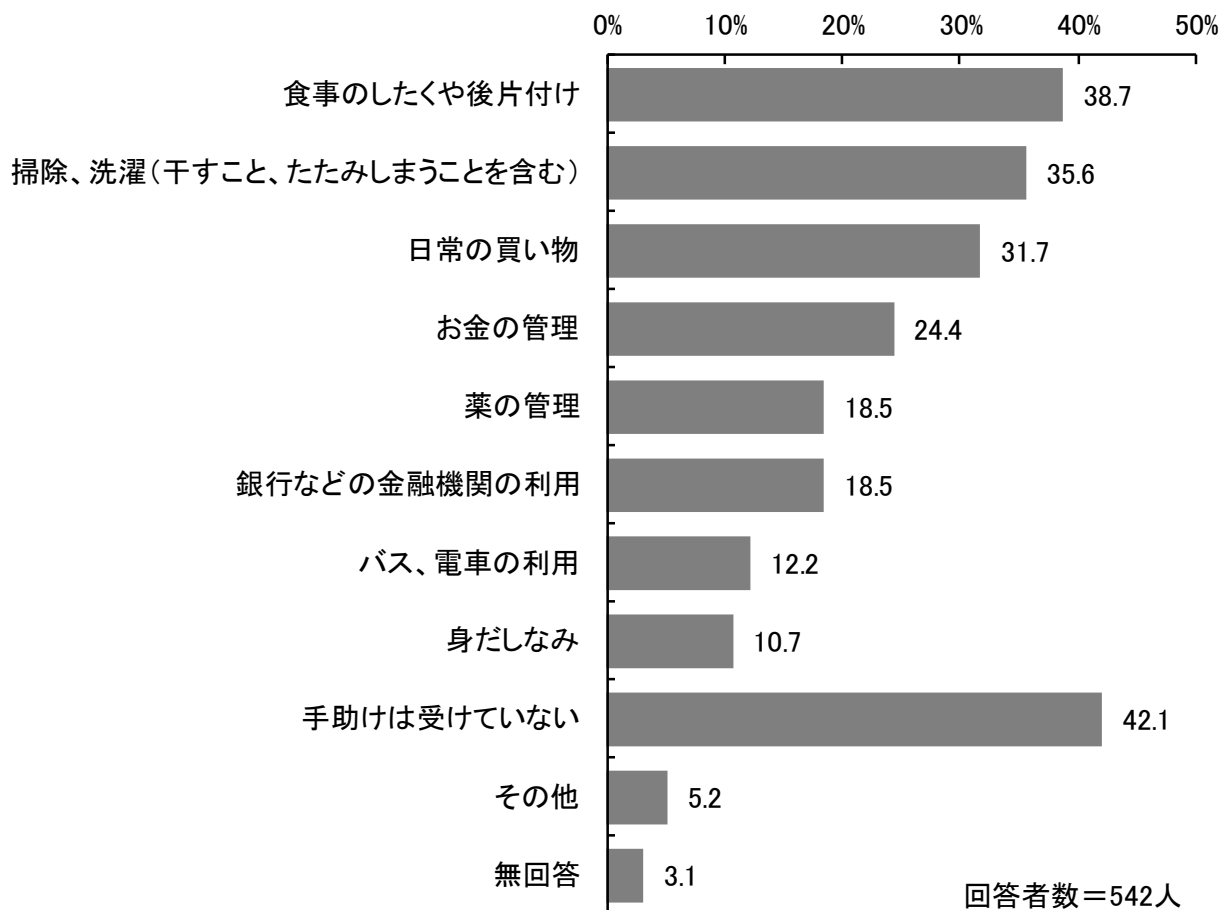
(1) 日常生活の手助けの有無

問7 次の日常生活について手助けを受けていますか。(○はあてはまるものすべて)

日常生活の手助けの有無は、「食事のしたくや後片付け」が38.7%で最も高く、次いで「掃除、洗濯(干すこと、たたみしまうことを含む)」35.6%、「日常の買い物」31.7%となっている。

一方、「手助けは受けていない」は42.1%である。

図表 III-9 日常生活の手助けの有無

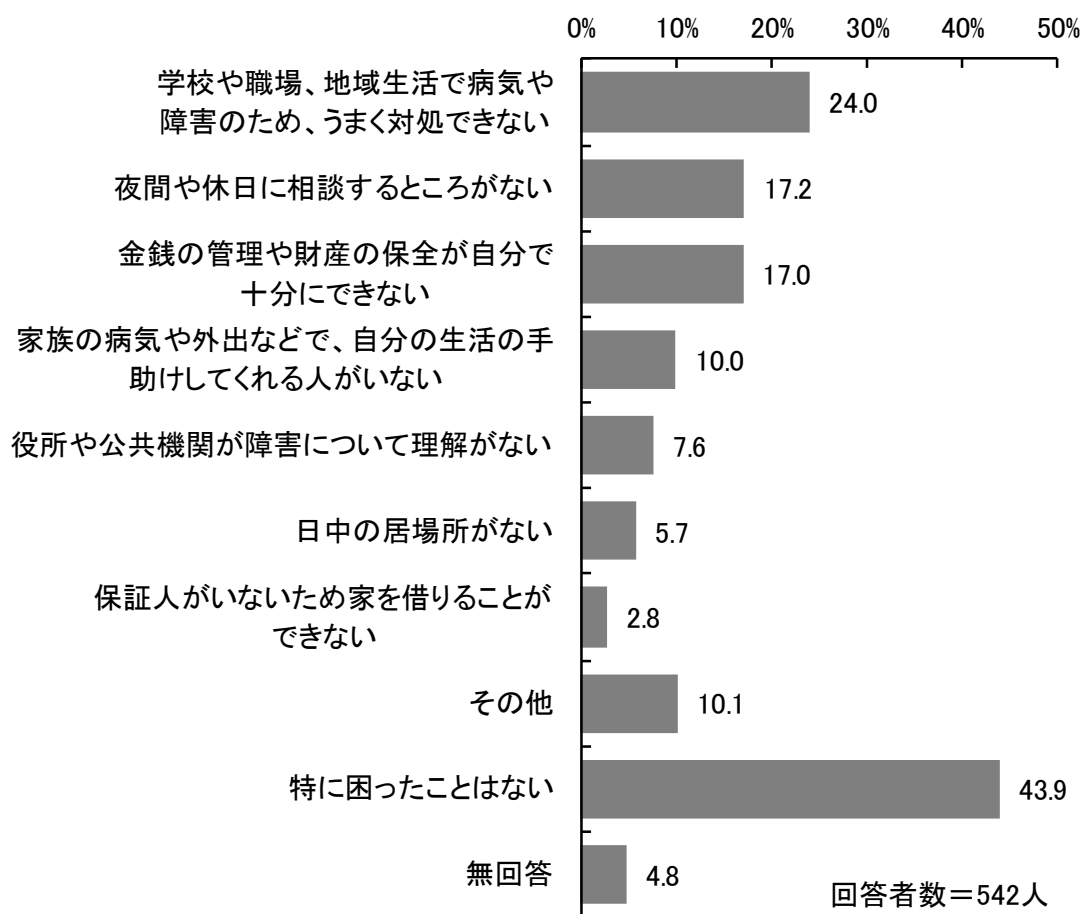


(2) 日常生活の中での困りごと

問8 日常生活の中で、困ったことはありますか。(〇はあてはまるものすべて)

日常生活の中での困りごとは、「学校や職場、地域生活で病気や障害のため、うまく対処できない」が24.0%で最も高く、次いで「夜間や休日に相談するところがない」17.2%、「金銭の管理や財産の保全が自分で十分にできない」17.0%となっている。

図表 III-10 日常生活の中での困りごと



障害の程度別にみると、1級では「金銭の管理や財産の保全が自分で十分にできない」が33.3%、3級では「学校や職場、地域生活で病気や障害のため、うまく対処できない」が38.5%、手帳を持っていない人では「特に困ったことはない」が61.4%と他の障害程度より割合が高くなっている。

図表 III-11 日常生活の中での困りごと（障害の程度別）

| | | 回答者数人 | 学校や職場、地域生活で病気や障害のため、うまく対処できない | 夜間や休日に相談するところがない | 金銭の管理や財産の保全が自分で十分にできない | 家族の病気や外出などで、自分の生活の手助けしてくれる人がいない | 役所や公共機関が障害について理解がない | 日中の居場所がない | 保証人がいないため家を借りることができない | その他 | 特に困ったことはない | 無回答 |
|--------|-----------|-------|-------------------------------|------------------|------------------------|---------------------------------|---------------------|-----------|-----------------------|------|------------|-----|
| 全体 | | 542 | 24.0 | 17.2 | 17.0 | 10.0 | 7.6 | 5.7 | 2.8 | 10.1 | 43.9 | 4.8 |
| 障害の程度別 | 1級 | 18 | 22.2 | 22.2 | 33.3 | 22.2 | 22.2 | 5.6 | 0.0 | 16.7 | 27.8 | 0.0 |
| | 2級 | 139 | 29.5 | 24.5 | 23.0 | 12.9 | 10.1 | 9.4 | 5.0 | 12.2 | 30.9 | 7.2 |
| | 3級 | 130 | 38.5 | 22.3 | 19.2 | 13.1 | 13.1 | 6.9 | 2.3 | 13.1 | 30.0 | 3.1 |
| | 手帳は持っていない | 233 | 14.6 | 9.4 | 10.7 | 6.4 | 2.6 | 3.4 | 2.1 | 7.3 | 61.4 | 2.6 |

単位：%

5. 障害の状況について

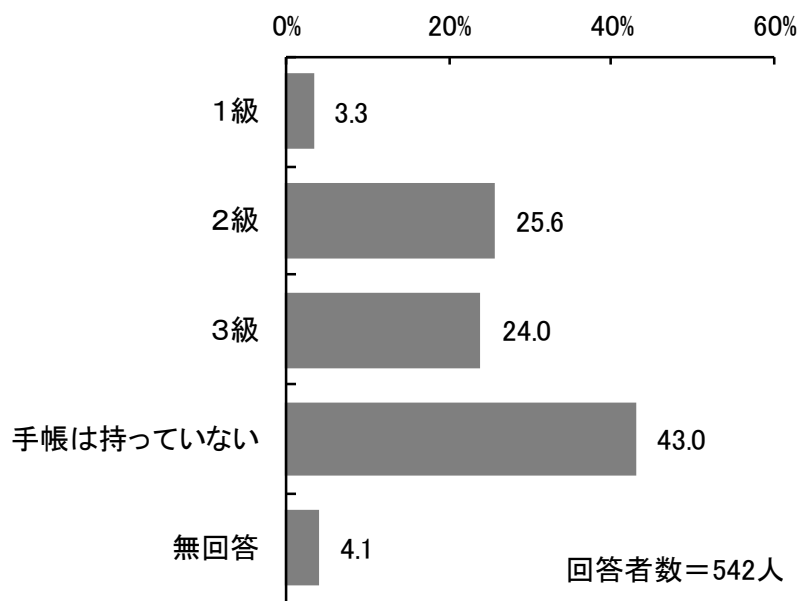
(1) 精神障害者保健福祉手帳の有無と程度

問9 あなたの精神障害者保健福祉手帳に記載されている障害の程度をお答えください。

(○は1つだけ)

精神障害者保健福祉手帳の有無と程度は、「手帳は持っていない」が43.0%で最も高く、次いで「2級」25.6%、「3級」24.0%、「1級」3.3%となっている。

図表 III-12 精神障害者保健福祉手帳の有無と程度

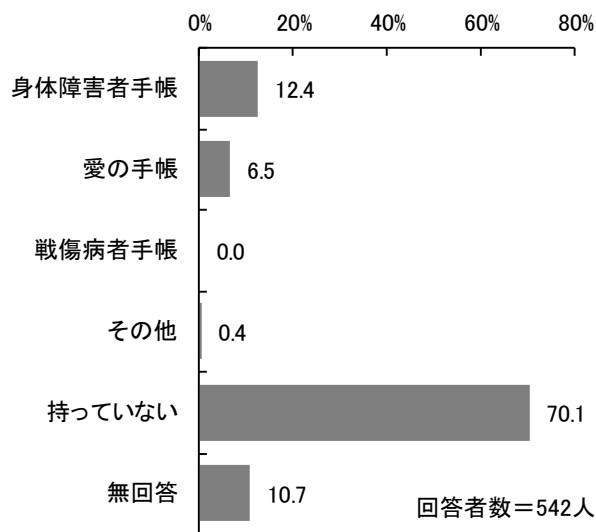


(2) 精神障害者保健福祉手帳以外の手帳の所持状況

問 10 あなたは精神障害者保健福祉手帳以外の手帳をお持ちですか。また、障害の程度を()の中にお書きください。(○はあてはまるものすべて)

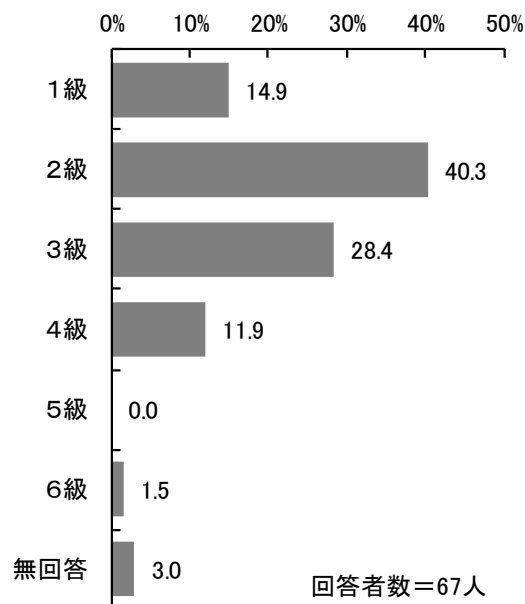
精神障害者保健福祉手帳以外の手帳の所持状況は、「持っていない」が70.1%で最も高く、次いで「身体障害者手帳」12.4%、「愛の手帳」6.5%となっている。

図表 III-13 精神障害者保健福祉手帳以外の手帳の所持状況



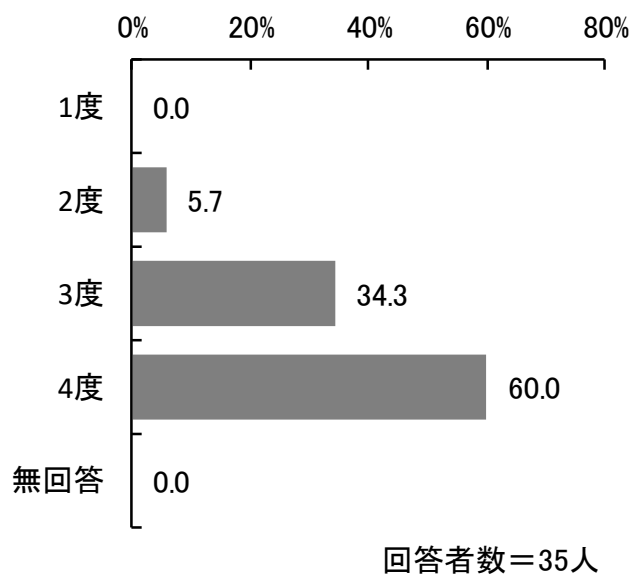
精神障害者で身体障害者手帳を所持している方の身体障害者手帳の程度は、「2級」が40.3%で最も高く、次いで「3級」28.4%となっている。

図表 III-14 身体障害者手帳の程度



精神障害者で愛の手帳を所持している方の愛の手帳の程度は、「4度」が60.0%で最も高く、次いで「3度」34.3%となっている。

図表 III-15 愛の手帳の程度

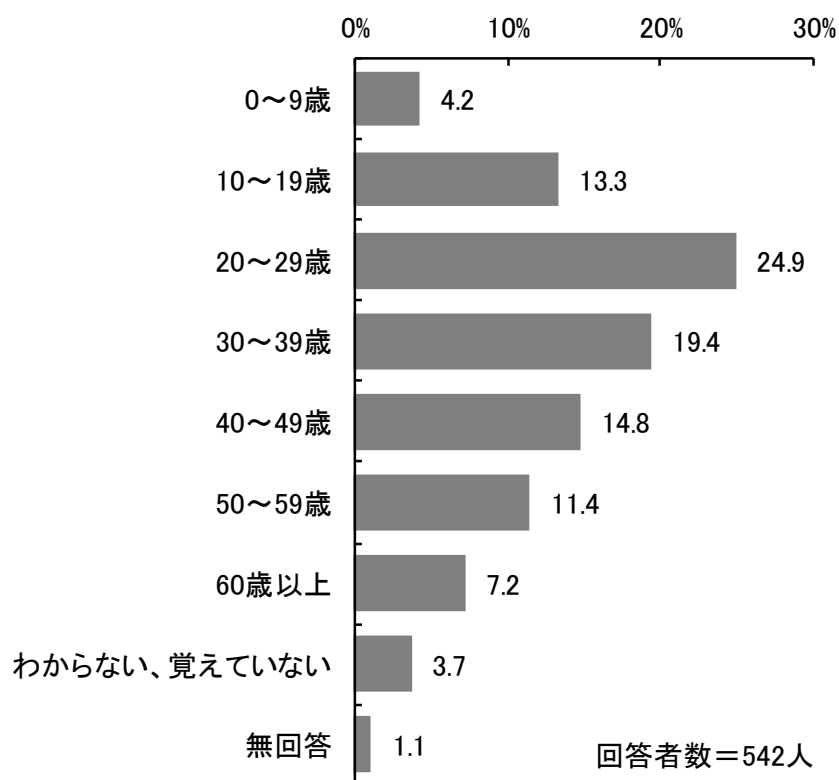


(3) 精神疾患初診時の年齢

問 11 あなたが精神科・神経科などで、精神疾患にかかわる病気の診断を初めて受けた時の年齢はいくつでしたか。(〇は1つだけ)

精神疾患初診時の年齢は、「20～29歳」が24.9%で最も高く、次いで「30～39歳」19.4%、「40～49歳」14.8%となっている。

図表 III-16 精神疾患初診時の年齢

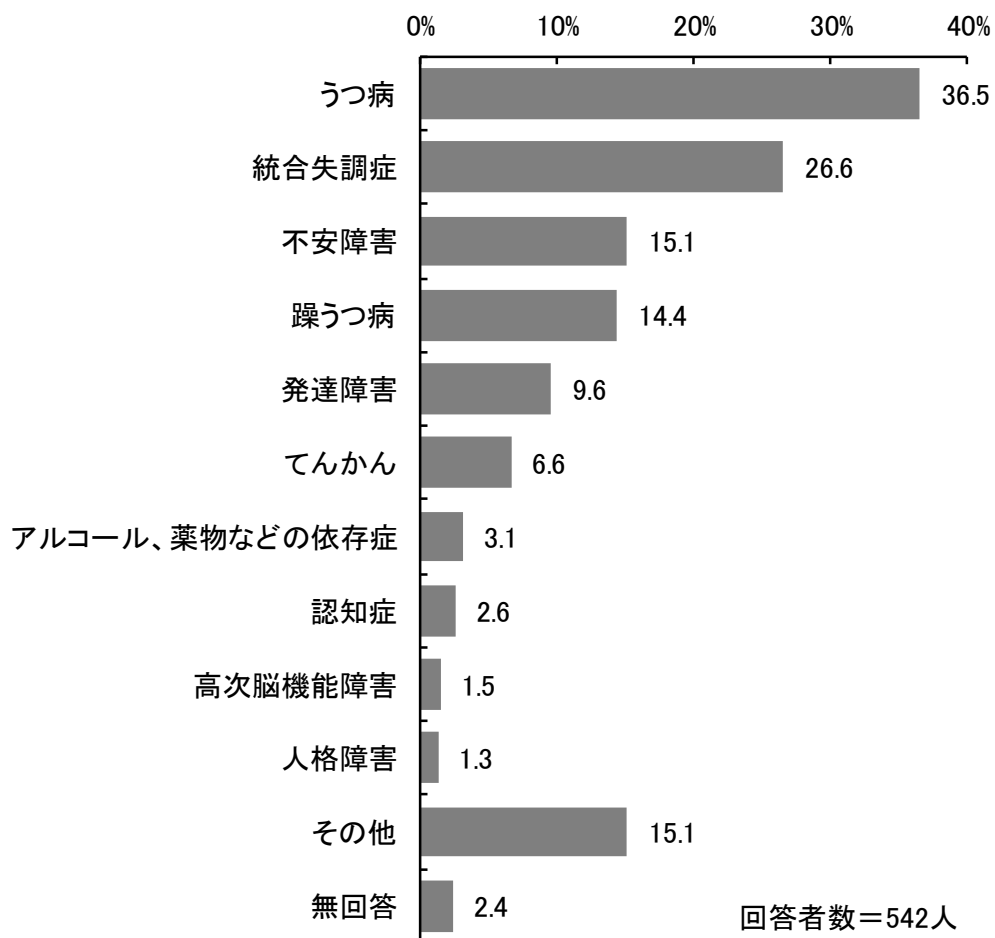


(4) 診断名

問 12 あなたの診断名をお答えください。(〇はあてはまるものすべて)

診断名は、「うつ病」が 36.5%で最も高く、次いで「統合失調症」26.6%、「不安障害」15.1%となっている。

図表 III-17 診断名

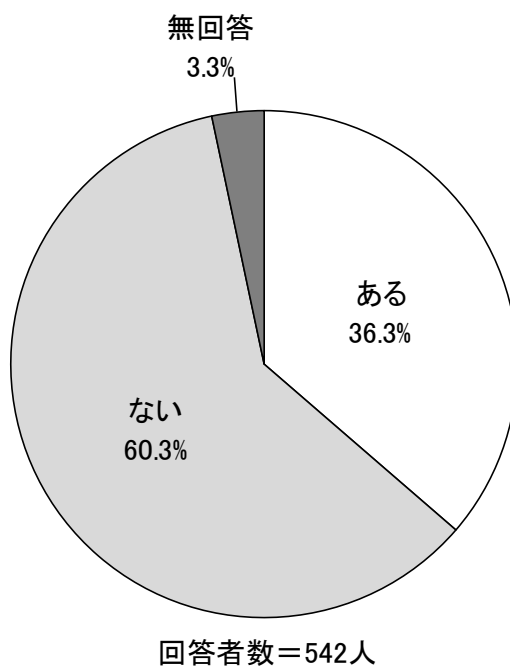


(5) 精神疾患での入院経験

問 13 精神疾患にかかわる病気で、入院したことはありますか。(〇は1つだけ)

精神疾患での入院経験は、「ない」が60.3%、「ある」が36.3%となっている。

図表 III-18 精神疾患での入院経験



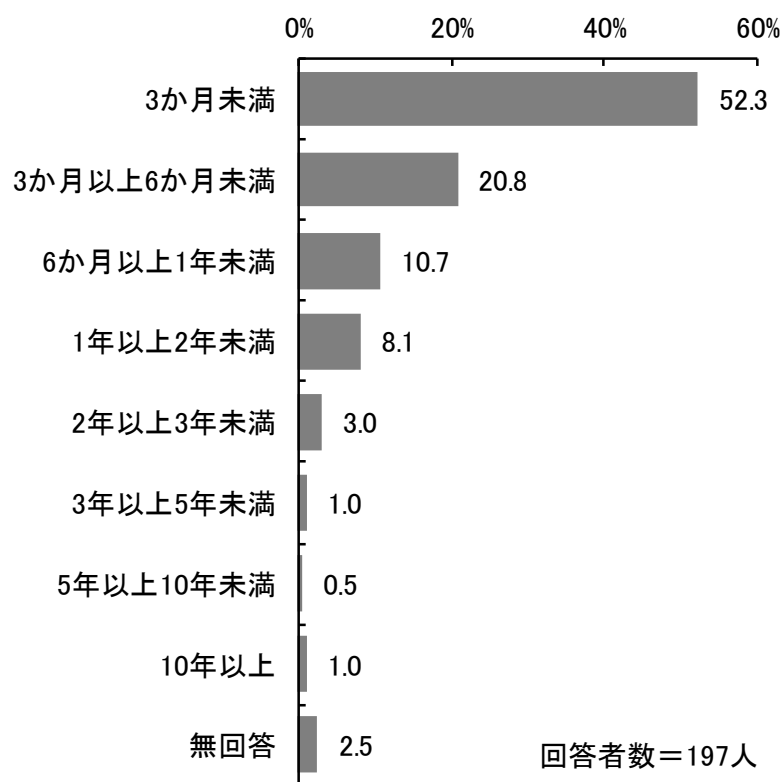
(6) 一番長かった入院期間

★ 問 13-①②は、問 13 で「1.ある」に○をした方

問 13-① これまでで一番長かった入院期間はどのくらいですか。(○は1つだけ)

精神疾患での入院経験が「ある」と回答した方の一番長かった入院期間は、「3か月未満」が52.3%で最も高く、次いで「3か月以上6か月未満」20.8%、「6か月以上1年未満」10.7%となっている。

図表 III-19 一番長かった入院期間



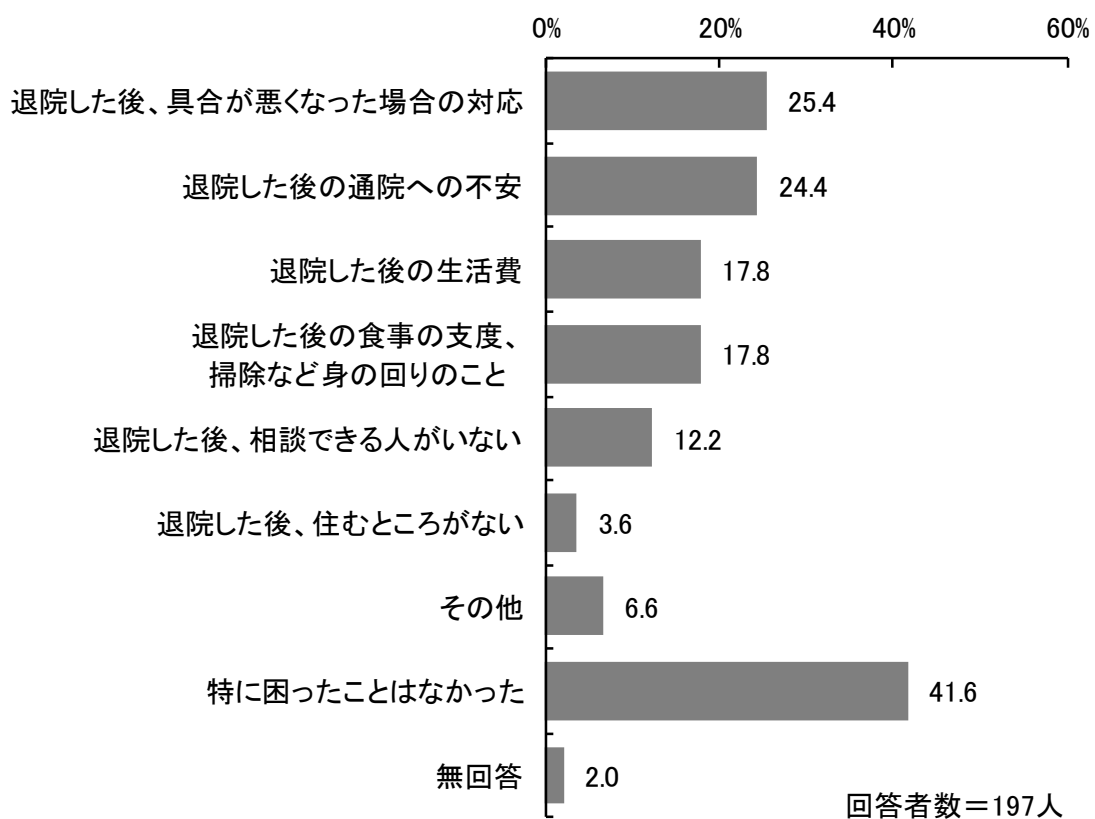
(7) 退院時に困ったこと

問 13-② 退院する時に困ったことはありましたか。(〇はあてはまるものすべて)

退院時に困ったことは、「退院した後、具合が悪くなった場合の対応」が25.4%で最も高く、次いで「退院した後の通院への不安」24.4%、「退院した後の生活費」「退院した後の食事の支度、掃除など身の回りのこと」がともに17.8%となっている。

一方、「特に困ったことはなかった」は41.6%である。

図表 III-20 退院時に困ったこと



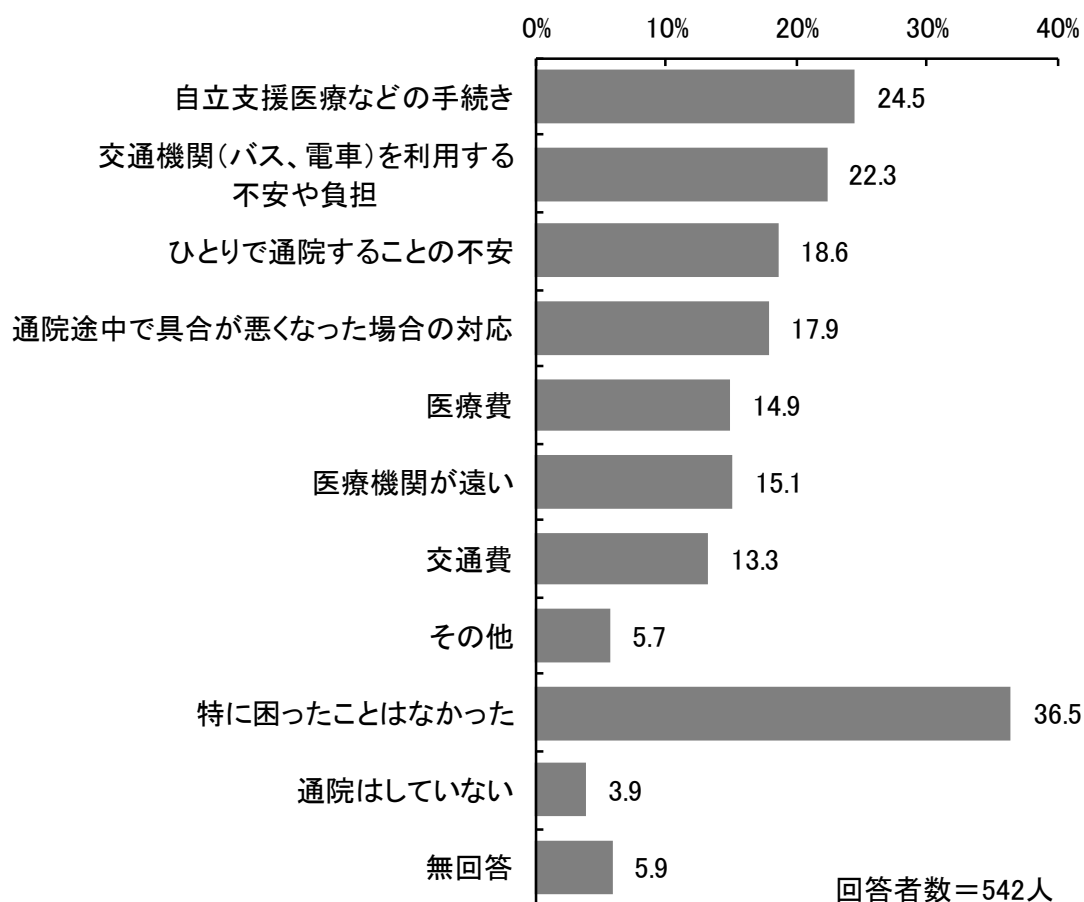
(8) 通院で困ったこと

問 14 過去1年間に精神疾患にかかわる病気の通院のことで何か困ったことはありますか。
(○はあてはまるものすべて)

通院で困ったことは、「自立支援医療などの手続き」が24.5%で最も高く、次いで「交通機関(バス、電車)を利用する不安や負担」22.3%、「ひとりで通院することの不安」18.6%、「通院途中で具合が悪くなった場合の対応」17.9%となっている。

一方、「特に困ったことはなかった」は36.5%である。

図表 III-2 1 通院で困ったこと



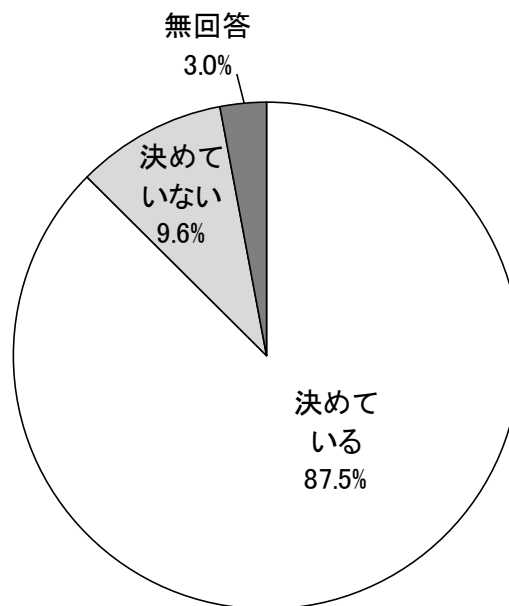
6. 健康管理について

(1) かかりつけの医療機関の有無

問 15 かかりつけの医療機関を決めていますか。(〇は1つだけ)

かかりつけの医療機関の有無は、「決めている」が87.5%、「決めていない」が9.6%となっている。

図表 III-22 かかりつけの医療機関の有無



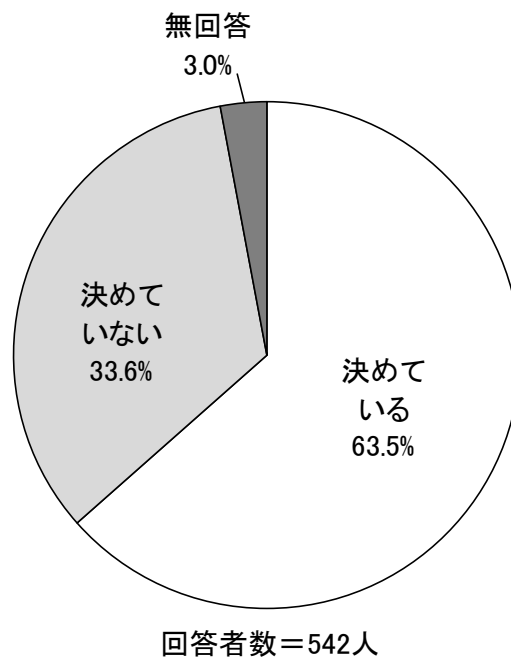
回答者数=542人

(2) かかりつけの歯科医療機関の有無

問 16 かかりつけの歯科医療機関を決めていますか。(○は1つだけ)

かかりつけの歯科医療機関の有無は、「決めている」が 63.5%、「決めていない」が 33.6% となっている。

図表 III-23 かかりつけの歯科医療機関の有無

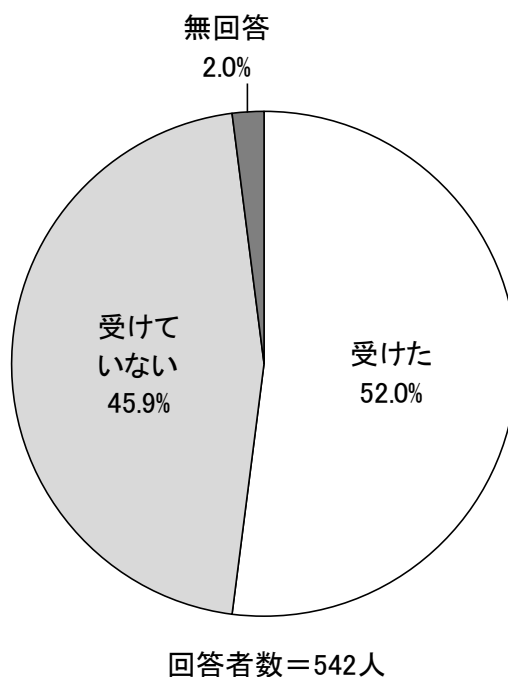


(3) 健康診断の受診状況

問 17 過去1年間に生活習慣病などの健康診断を受けましたか。(○は1つだけ)

健康診断の受診状況は、「受けた」が52.0%、「受けていない」が45.9%となっている。

図表 III-24 健康診断の受診状況



年代別にみると、壮年期（40～64歳）では「受けた」が60.4%、「受けていない」は、就学期（5～17歳）で77.8%、青年期（18～39歳）で57.0%と高くなっている。

図表 III-25 健康診断の受診状況（年代別）

| | | 回答者数 人 | 受けた | 受けていない | 無回答 |
|-----|-------------|-----------|------|--------|------|
| 全体 | | 542 | 52.0 | 45.9 | 2.0 |
| 年代別 | 就学期（5～17歳） | 9 | 11.1 | 77.8 | 11.1 |
| | 青年期（18～39歳） | 121 | 42.1 | 57.0 | 0.8 |
| | 壮年期（40～64歳） | 275 | 60.4 | 38.5 | 1.1 |
| | 高齢期（65歳以上） | 96 | 47.9 | 47.9 | 4.2 |

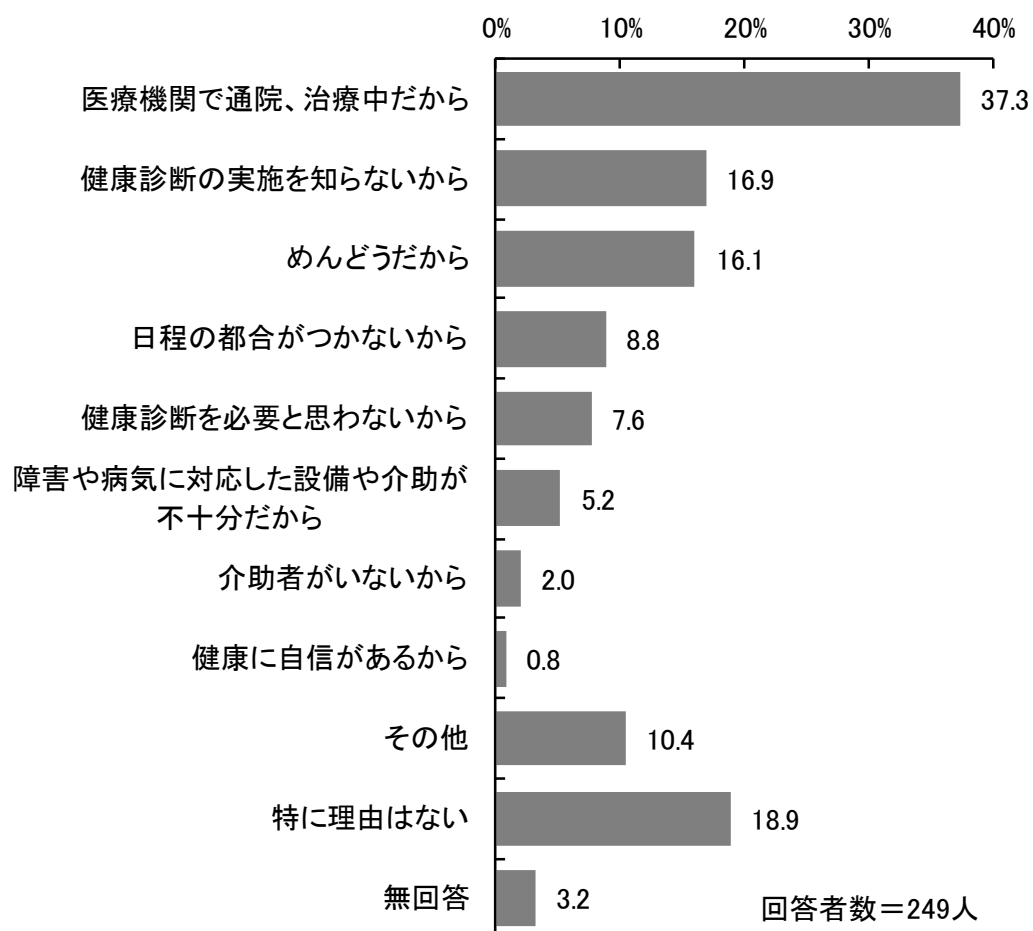
単位：%

(4) 健康診断を受けていない理由

★ 問 17-①は、問 17で「2.受けていない」に○をした方
問 17-① 受けていない理由は何ですか。(○はあてはまるものすべて)

健康診断を「受けていない」と回答した方の健康診断を受けていない理由は、「医療機関で通院、治療中だから」が 37.3%で最も高く、次いで、「健康診断の実施を知らないから」16.9%、「めんどうだから」16.1%となっている。

図表 III-26 健康診断を受けていない理由



年代別にみると、青年期（18～39歳）では「健康診断の実施を知らないから」が31.9%、壮年期（40～64歳）では「日程の都合がつかないから」が12.3%、高齢期（65歳以上）では「医療機関で通院、治療中だから」が65.2%で、他の年代より高くなっている。

また、就学期を除く年代では、年代が低くなるほど「健康診断の実施を知らないから」「めんどうだから」「健康診断を必要と思わないから」の割合が高くなる傾向がある。

図表 III-27 健康診断を受けていない理由（年代別）

| | | 回答者数 人 | 医療機関で通院 治療中 だから | 健康診断の 実施を知らない から | めんどうだから | 日程の都合が つかないから | 健康診断を必要 と思わない から | 障害や病気に 対応した設 備や介助が不 十分だから |
|-----|-------------|-----------|-----------------------|------------------------|---------|------------------|------------------------|------------------------------------|
| 全体 | | 249 | 37.3 | 16.9 | 16.1 | 8.8 | 7.6 | 5.2 |
| 年代別 | 就学期（5～17歳） | 7 | 28.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 14.3 | 14.3 |
| | 青年期（18～39歳） | 69 | 24.6 | 31.9 | 20.3 | 7.2 | 10.1 | 7.2 |
| | 壮年期（40～64歳） | 106 | 35.8 | 13.2 | 16.0 | 12.3 | 7.5 | 4.7 |
| | 高齢期（65歳以上） | 46 | 65.2 | 2.2 | 15.2 | 8.7 | 4.3 | 4.3 |

| | | 回答者数 人 | 介助者がいない から | 健康に自信が あるから | その他 | 特に理由はない | 無回答 |
|-----|-------------|-----------|---------------|----------------|------|---------|-----|
| 全体 | | 249 | 2.0 | 0.8 | 10.4 | 18.9 | 3.2 |
| 年代別 | 就学期（5～17歳） | 7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 42.9 | 0.0 |
| | 青年期（18～39歳） | 69 | 0.0 | 1.4 | 10.1 | 23.2 | 2.9 |
| | 壮年期（40～64歳） | 106 | 1.9 | 0.9 | 11.3 | 18.9 | 2.8 |
| | 高齢期（65歳以上） | 46 | 2.2 | 0.0 | 8.7 | 8.7 | 4.3 |

単位：%

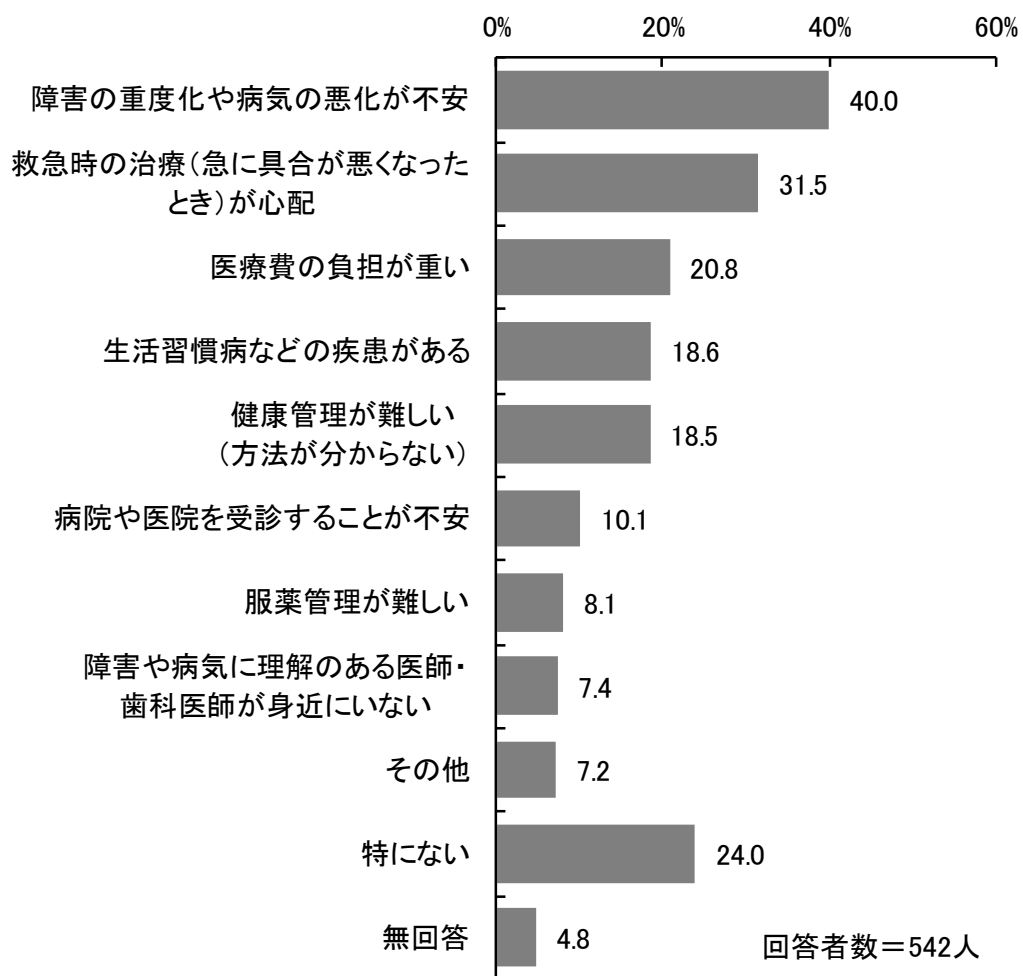
(5) 健康や医療についての不安や課題

問 18 ご自身の健康や医療について、どのような不安や課題がありますか。

(○はあてはまるものすべて)

健康や医療についての不安や課題は、「障害の重度化や病気の悪化が不安」が40.0%で最も高く、次いで「救急時の治療（急に具合が悪くなったとき）が心配」31.5%、「医療費の負担が重い」20.8%となっている。

図表 III-28 健康や医療についての不安や課題



障害の程度別にみると、1級、2級、3級では「障害の重度化や病気の悪化が不安」の割合が第1位となっている。

1級では「障害の重度化や病気の悪化が不安」が66.7%、「救急時の治療（急に具合が悪くなったとき）が心配」が44.4%、「健康管理が難しい（方法が分からない）」が44.4%と、他の障害程度より割合が高くなっている。

図表 III-29 健康や医療についての不安や課題（障害の程度別）

| | | 回答者数人 | 障害の重度化や病気の悪化が不安 | 救急時の治療 急に具合が悪くなったときが心配 | 医療費の負担が重い | 生活習慣病などの疾患がある | 健康管理が難しい（方法が分からない） | 病院や医院を受診することが不安 |
|--------|-----------|-------|-----------------|------------------------|-----------|---------------|--------------------|-----------------|
| 全体 | | 542 | 40.0 | 31.5 | 20.8 | 18.6 | 18.5 | 10.1 |
| 障害の程度別 | 1級 | 18 | 66.7 | 44.4 | 5.6 | 22.2 | 44.4 | 16.7 |
| | 2級 | 139 | 58.3 | 37.4 | 26.6 | 23.7 | 23.0 | 12.9 |
| | 3級 | 130 | 40.0 | 34.6 | 23.1 | 18.5 | 20.0 | 14.6 |
| | 手帳はもっていない | 233 | 26.6 | 24.9 | 18.0 | 16.3 | 14.2 | 6.4 |

| | | 回答者数人 | 服薬管理が難しい | 障害や病気に理解のある医師 歯科医師が身近にいない | その他 | 特になし | 無回答 |
|--------|-----------|-------|----------|------------------------------|-----|------|-----|
| 全体 | | 542 | 8.1 | 7.4 | 7.2 | 24.0 | 4.8 |
| 障害の程度別 | 1級 | 18 | 11.1 | 11.1 | 5.6 | 5.6 | 0.0 |
| | 2級 | 139 | 14.4 | 7.9 | 9.4 | 15.1 | 2.2 |
| | 3級 | 130 | 8.5 | 14.6 | 6.9 | 20.8 | 6.9 |
| | 手帳はもっていない | 233 | 3.9 | 3.4 | 6.9 | 32.6 | 4.7 |

単位：%

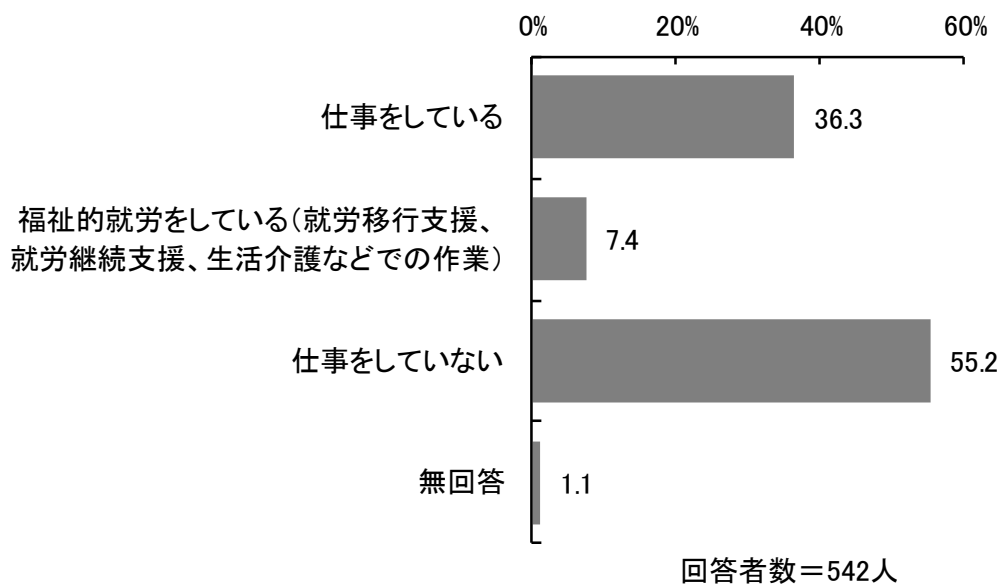
7. 就労状況について

(1) 就労状況

問 19 現在、収入を伴う仕事をしていますか。(○は1つだけ)

就労状況は、「仕事をしていない」が 55.2%で最も高く、次いで「仕事をしている」36.3%となっている。

図表 III-30 就労状況



障害の程度別にみると、すべての障害の程度で「仕事をしていない」割合が第1位となっている。2級では「福祉的就労をしている（就労移行支援、就労継続支援、生活介護などの作業）」が11.5%と、他の障害程度に比べ高くなっている。

図表 III-3 1 就労状況（障害の程度別）

| | | 回答者数 人 | 仕事をしている | 福祉的就労をしている 就労移行支援 就労継続支援 生活介護などの作業 | 仕事をしていない | 無回答 |
|------------|-----------|-----------|---------|--|----------|-----|
| 全 体 | | 542 | 36.3 | 7.4 | 55.2 | 1.1 |
| 障害の 程度別 | 1 級 | 18 | 11.1 | 5.6 | 77.8 | 5.6 |
| | 2 級 | 139 | 20.9 | 11.5 | 67.6 | 0.0 |
| | 3 級 | 130 | 36.9 | 9.2 | 53.1 | 0.8 |
| | 手帳は持っていない | 233 | 47.2 | 3.4 | 47.6 | 1.7 |

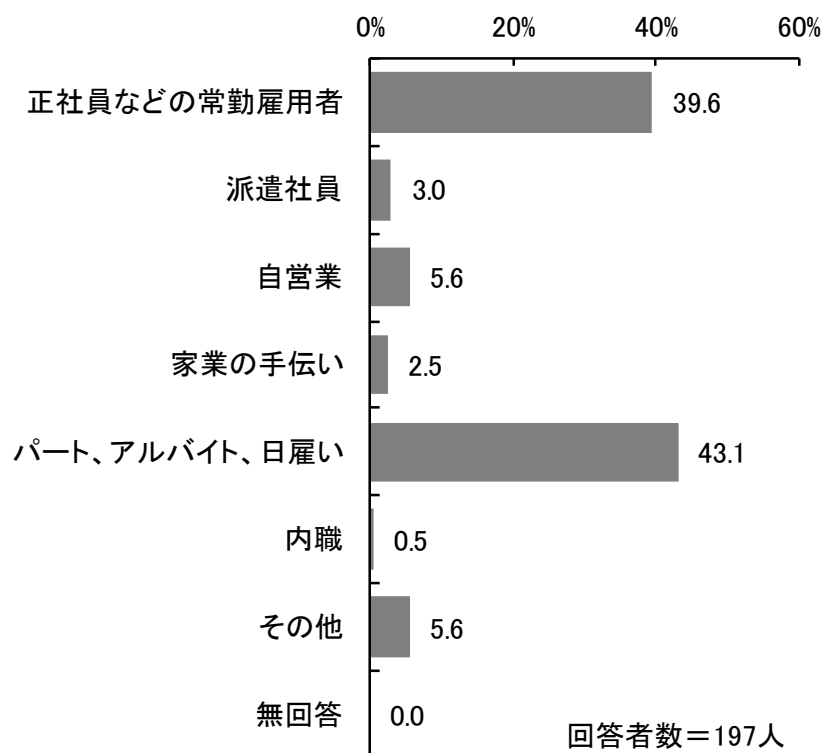
単位：%

(2) 仕事の形態

★ 問 19-①は、問 19 で「1.仕事をしている」に○をした方
問 19-① 雇用の形態は何ですか。(○は1つだけ)

「仕事をしている」と回答した方の仕事の形態は、「パート、アルバイト、日雇い」が 43.1%で最も高く、次いで「正社員などの常勤雇用者」39.6%となっている。

図表 III-3 2 仕事の形態

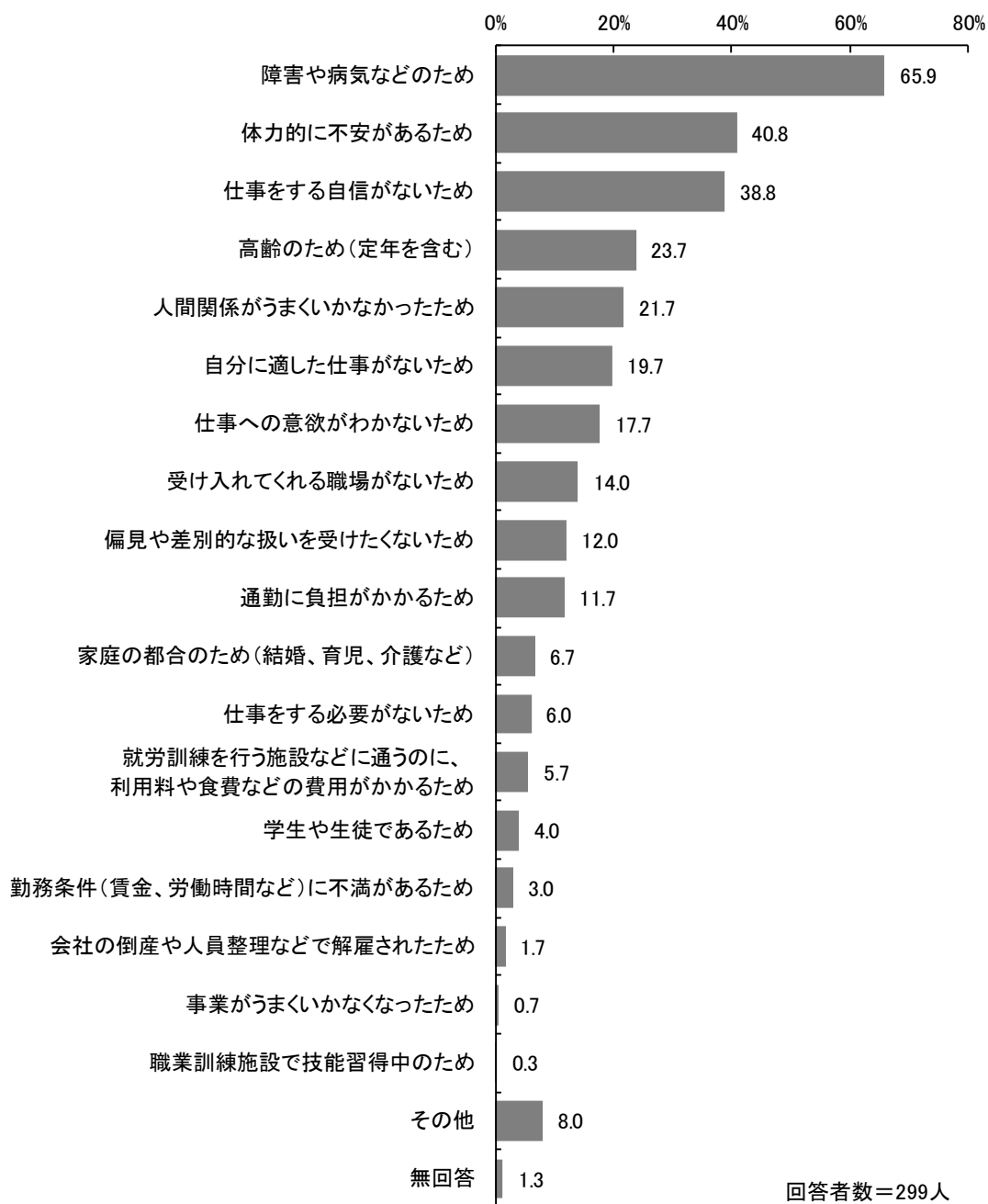


(3) 仕事をしていない理由

★ 問 19-②は、問 19 で「3.仕事をしていない」に○をした方
 問 19-② 現在、仕事をしていない理由は何ですか。(○はあてはまるものすべて)

「仕事をしていない」と回答した方の仕事をしていない理由は、「障害や病気などのため」が 65.9%で最も高く、次いで「体力的に不安があるため」が 40.8%、「仕事をする自信がないため」38.8%となっている。

図表 III-33 仕事をしていない理由

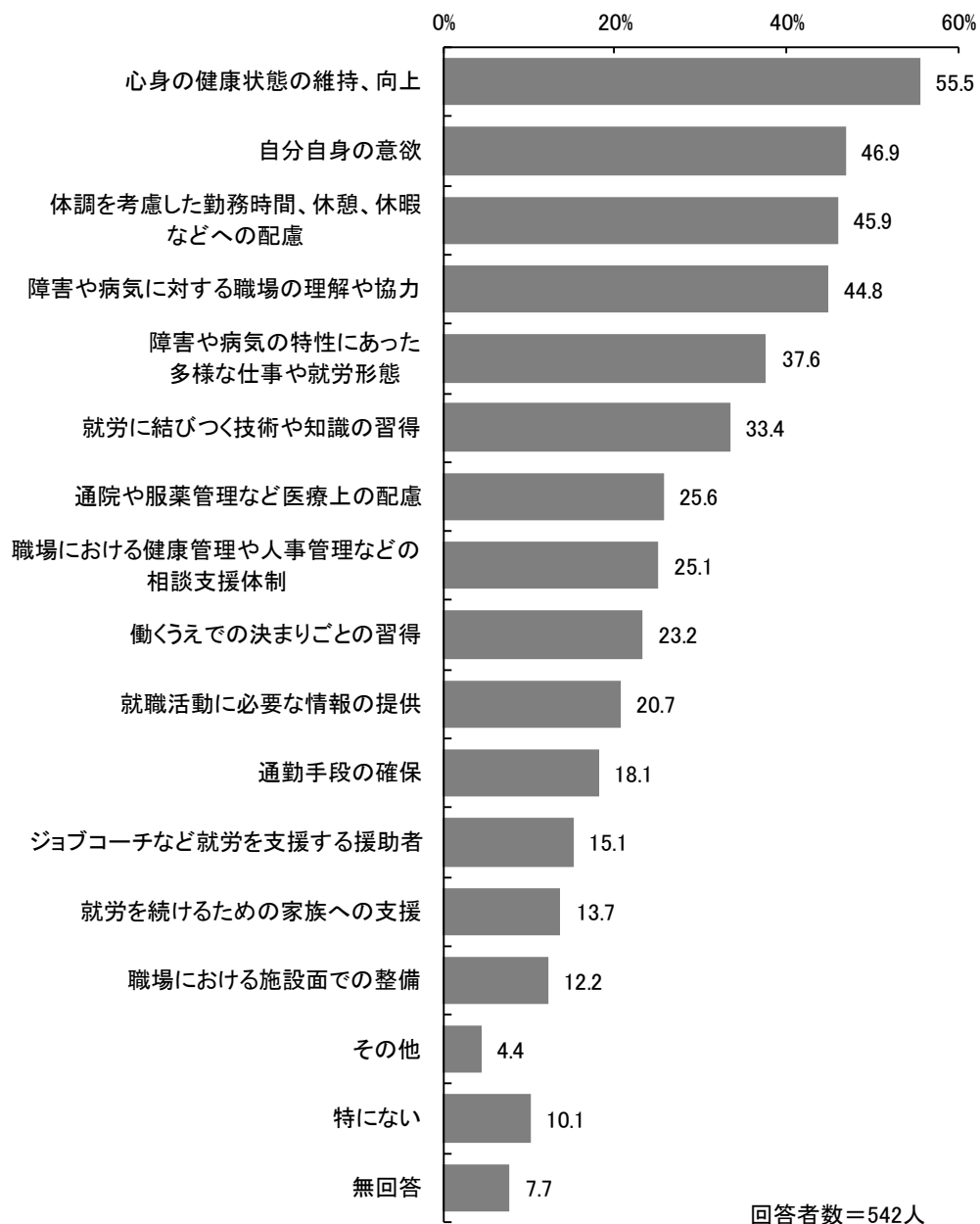


(4) 仕事をする（していく）ために必要なこと

問 20 仕事をする（していく）ために必要なことは何ですか。（〇はあてはまるものすべて）

仕事をする（していく）ために必要なことは、「心身の健康状態の維持、向上」が 55.5%で最も高く、次いで「自分自身の意欲」46.9%、「体調を考慮した勤務時間、休憩、休暇などへの配慮」45.9%となっている。

図表 III-34 仕事をする（していく）ために必要なこと



*ジョブコーチとは、障害のある方と一緒に職場に入り、障害のある方が一人で仕事ができるようになるまでの手助けや障害のある方と事業者との間の調整などを行う指導者のこと。

障害の程度別にみると、1級と2級と手帳を持っていない人では「心身の健康状態の維持、向上」が、3級では「体調を考慮した勤務時間、休憩、休暇などへの配慮」が第1位となっている。

年代別にみると、青年期（18～39歳）以降すべての項目で、年代が低くなるほど割合が高い傾向にある。

図表 III-35 仕事をする（していく）ために必要なこと（障害の程度別/年代別）

| | | 回答者数人 | 上 心身の健康状態の維持 向 | 自分自身の意欲 | 休憩 休暇などの配慮 | 体調を考慮した勤務時間 | 障害や病気に対する職場の 理解や協力 | 多様な仕事や就労形態 | 障害や病気の特性にあつた 就労に結びつく技術や知識 の習得 | 通院や服薬管理など医療上 の配慮 | 職場における健康管理や人 事管理などの相談支援体制 | 働くうえでの決まりごとの 習得 |
|--------|-------------|-------|----------------------|---------|------------|-------------|-----------------------|------------|-------------------------------------|---------------------|------------------------------|--------------------|
| 全 体 | | 542 | 55.5 | 46.9 | 45.9 | 44.8 | 37.6 | 33.4 | 25.6 | 25.1 | 23.2 | |
| 障害の程度別 | 1級 | 18 | 33.3 | 27.8 | 16.7 | 27.8 | 16.7 | 22.2 | 11.1 | 22.2 | 22.2 | |
| | 2級 | 139 | 54.7 | 43.9 | 46.0 | 54.0 | 51.1 | 33.8 | 32.4 | 25.2 | 25.2 | |
| | 3級 | 130 | 60.8 | 49.2 | 61.5 | 58.5 | 52.3 | 50.0 | 32.3 | 33.8 | 26.2 | |
| | 手帳は持っていない | 233 | 56.7 | 49.8 | 40.8 | 36.5 | 25.3 | 27.5 | 20.2 | 21.9 | 22.7 | |
| 年代別 | 就学期（5～17歳） | 9 | 55.6 | 55.6 | 55.6 | 66.7 | 44.4 | 44.4 | 22.2 | 33.3 | 33.3 | |
| | 青年期（18～39歳） | 121 | 64.5 | 61.2 | 66.9 | 69.4 | 52.1 | 48.8 | 34.7 | 41.3 | 34.7 | |
| | 壮年期（40～64歳） | 275 | 61.5 | 48.4 | 48.4 | 46.2 | 41.1 | 34.5 | 27.3 | 25.1 | 23.6 | |
| | 高齢期（65歳以上） | 96 | 32.3 | 28.1 | 17.7 | 13.5 | 12.5 | 9.4 | 13.5 | 7.3 | 9.4 | |

| | | 回答者数人 | 就職活動に必要な情報の 提供 | 通勤手段の確保 | 支援する援助者 | ジョブコーチなど就労を支 援するための家族 の支援 | 職場における施設面での整 備 | その他 | 特にな い | 無回 答 |
|--------|-------------|-------|-------------------|---------|---------|---------------------------------|-------------------|------|----------|---------|
| 全 体 | | 542 | 20.7 | 18.1 | 15.1 | 13.7 | 12.2 | 4.4 | 10.1 | 7.7 |
| 障害の程度別 | 1級 | 18 | 16.7 | 5.6 | 11.1 | 5.6 | 11.1 | 11.1 | 16.7 | 33.3 |
| | 2級 | 139 | 25.2 | 22.3 | 21.6 | 14.4 | 12.9 | 3.6 | 10.1 | 7.9 |
| | 3級 | 130 | 30.8 | 25.4 | 26.2 | 17.7 | 15.4 | 8.5 | 6.2 | 0.8 |
| | 手帳は持っていない | 233 | 14.6 | 14.2 | 6.4 | 12.4 | 10.7 | 2.6 | 12.0 | 8.2 |
| 年代別 | 就学期（5～17歳） | 9 | 33.3 | 11.1 | 33.3 | 0.0 | 11.1 | 0.0 | 0.0 | 11.1 |
| | 青年期（18～39歳） | 121 | 32.2 | 26.4 | 23.1 | 22.3 | 22.3 | 7.4 | 3.3 | 2.5 |
| | 壮年期（40～64歳） | 275 | 21.1 | 19.3 | 15.6 | 13.5 | 10.2 | 2.9 | 8.4 | 2.9 |
| | 高齢期（65歳以上） | 96 | 7.3 | 5.2 | 3.1 | 5.2 | 6.3 | 5.2 | 24.0 | 24.0 |

単位：％

8. 経済基盤について

(1) 令和3年中の収入源

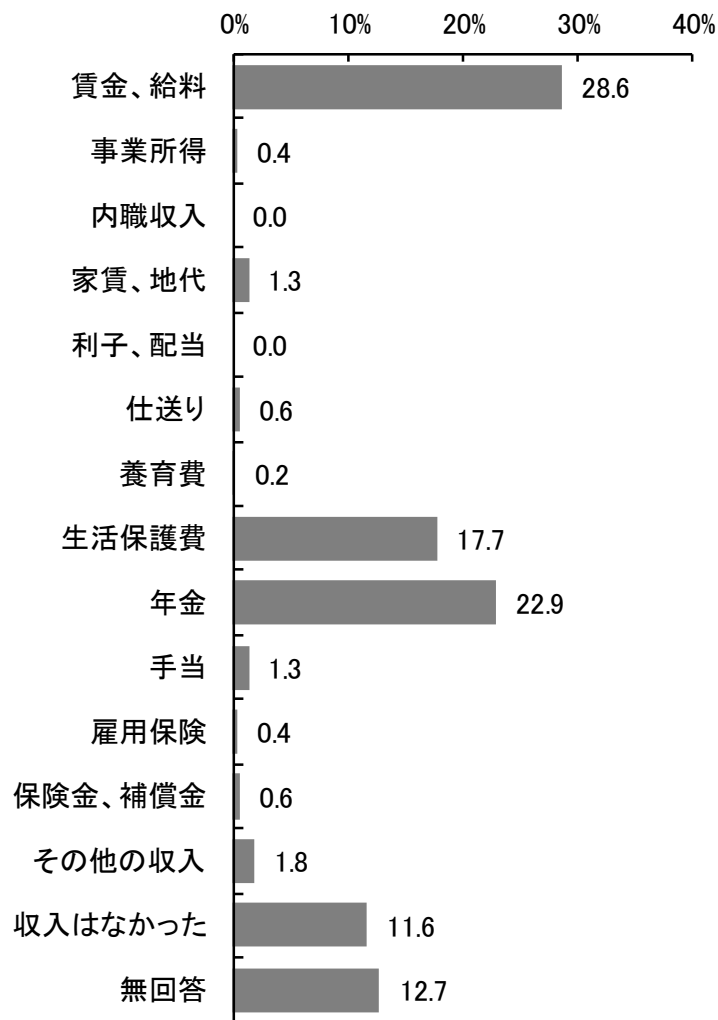
問 21 昨年あなたの収入は何によるものですか。

(主なもの1つに◎、その他該当するものがあれば2つまで○)

令和3年中の収入源(主なもの)は、「賃金、給料」が28.6%で最も高く、次いで「年金」22.9%、「生活保護費」17.7%となっている。

一方、「収入はなかった」は11.6%である。

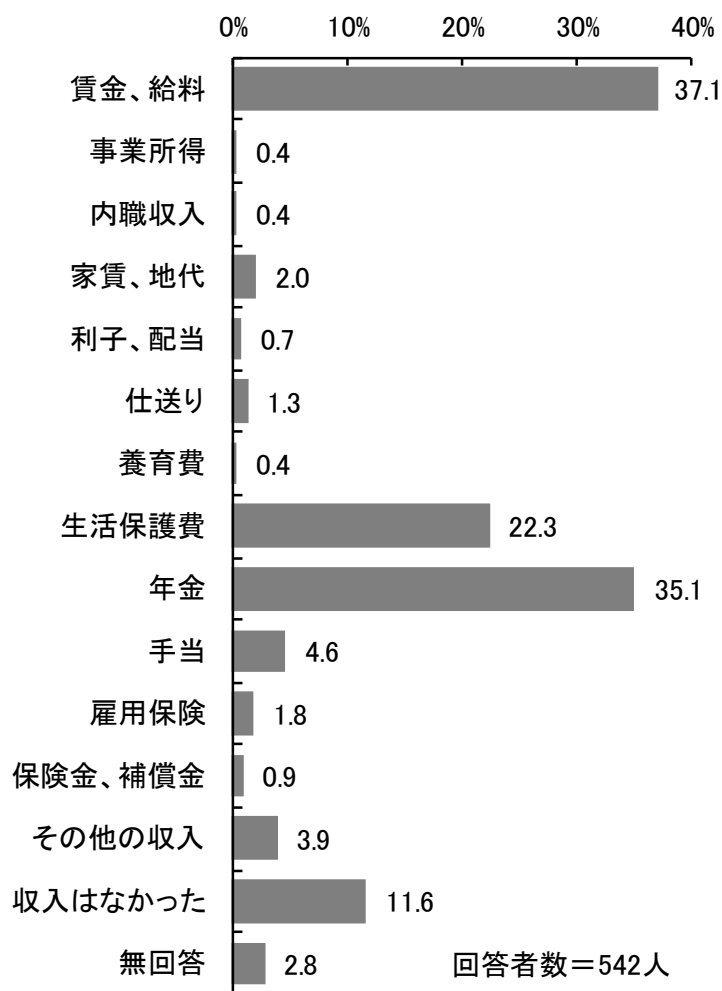
図表 III-36 令和3年中の収入源(主なもの)



回答者数=542人

令和3年中の収入源（該当するものすべて）は、「賃金、給料」が37.1%で最も高く、次いで「年金」35.1%、「生活保護費」22.3%となっている。

図表 III-37 令和3年中の収入源（該当するものすべて）



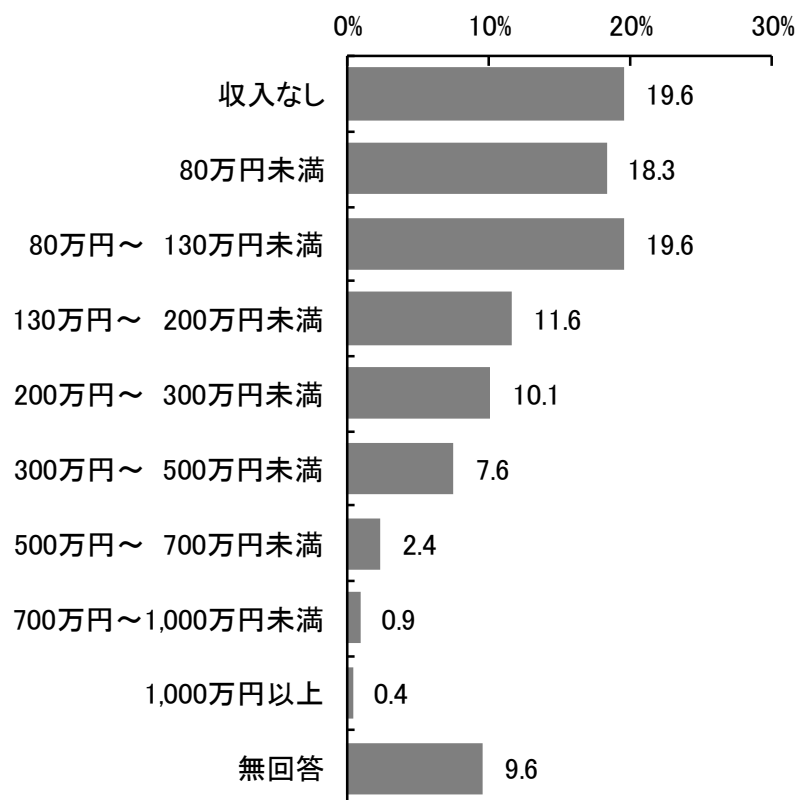
(2) 令和3年中の収入額

問 22 昨年中のすべての収入額はどれくらいでしたか。(○は1つだけ)

令和3年中の収入額は、「80万円～130万円未満」が19.6%で最も高く、次いで「80万円未満」18.3%となっている。

一方、「収入なし」は19.6%である。

図表 III-38 令和3年中の収入額



回答者数=542人

*収入には、あなたご自身で働いて得た収入のほか、あなたの年金や手当による収入、家族からの仕送りを含みますが、生活保護費は除きます。

9. 福祉サービスについて

(1) 障害者総合支援法の福祉サービスの利用状況

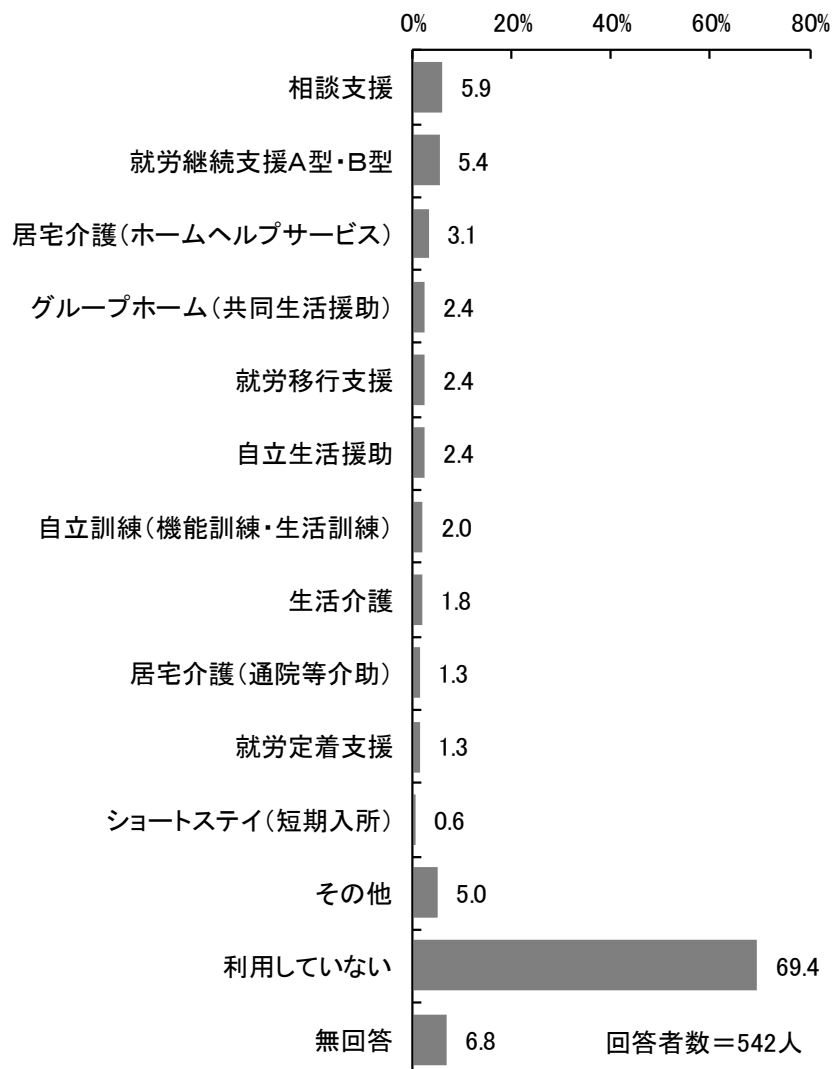
問 23 あなたはどのような障害者総合支援法の福祉サービスを利用していますか。

(○はあてはまるものすべて)

障害者総合支援法の福祉サービスの利用状況は、「相談支援」が5.9%で最も高く、次いで「就労継続支援A型・B型」が5.4%となっている。

一方、「利用していない」は69.4%である。

図表 III-39 障害者総合支援法の福祉サービスの利用状況

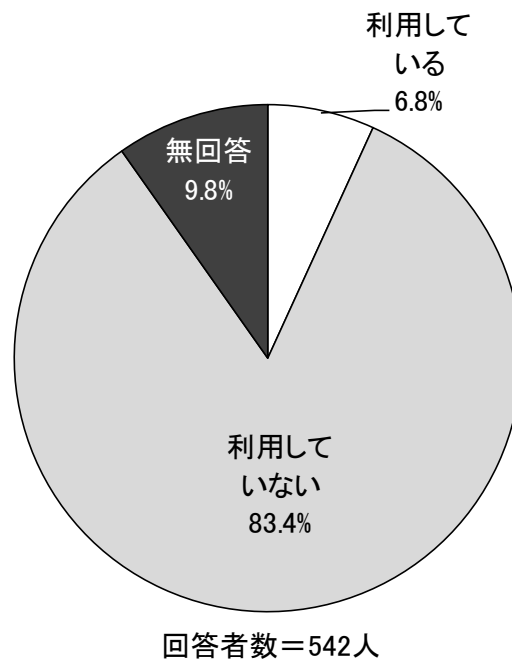


(2) 介護保険サービスの利用状況

問 24 あなたは介護保険サービスを利用していますか。(○は1つだけ)

介護保険サービスの利用状況は、「利用していない」が83.4%となっている。

図表 III-40 介護保険サービスの利用状況

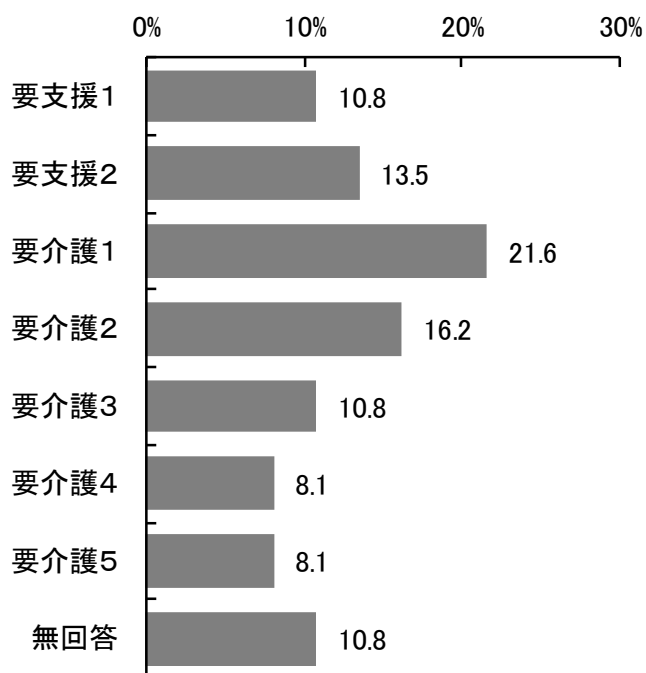


(3) 要介護度

★ 問24-①②は、問24で「1.利用している」に○をした方
問24-① あなたの要介護度は何度ですか。(○は1つだけ)

介護保険サービスを「利用している」と回答した方の要介護度は、「要介護1」が21.6%で最も高く、次いで「要介護2」16.2%となっている。

図表 III-4 1 要介護度



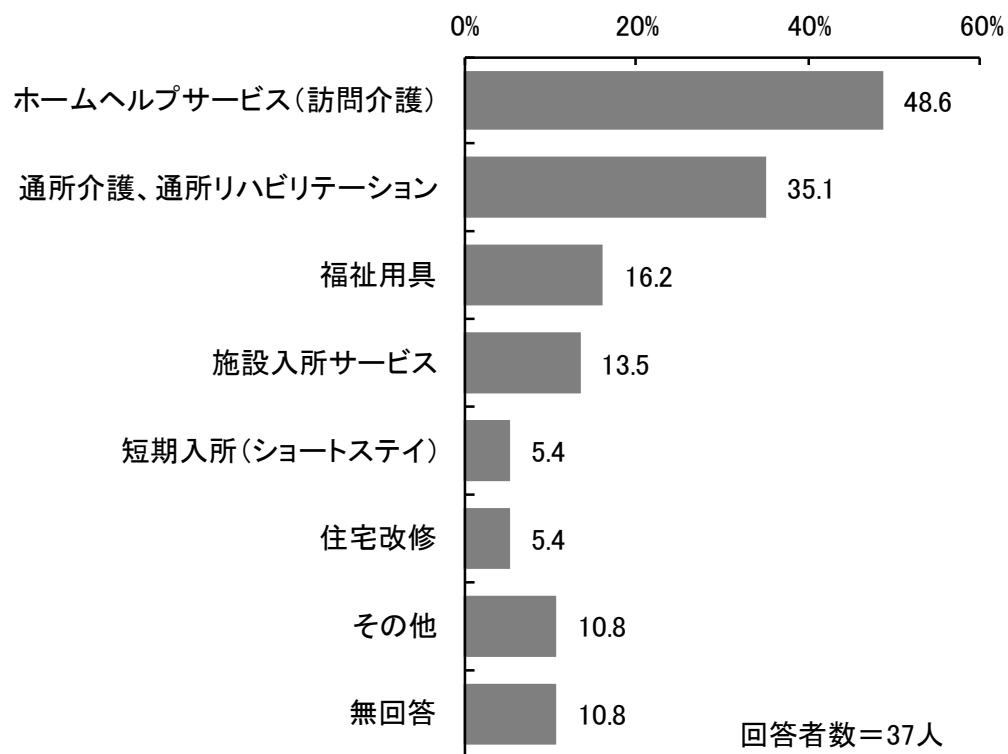
回答者数=37人

(4) 利用している介護保険サービス

問 24-② あなたはどのようなサービスを受けていますか。(〇はあてはまるものすべて)

利用している介護保険サービスは、「ホームヘルプサービス(訪問介護)」が48.6%で最も高く、次いで「通所介護、通所リハビリテーション」35.1%、「福祉用具」16.2%となっている。

図表 III-4 2 利用している介護保険サービス

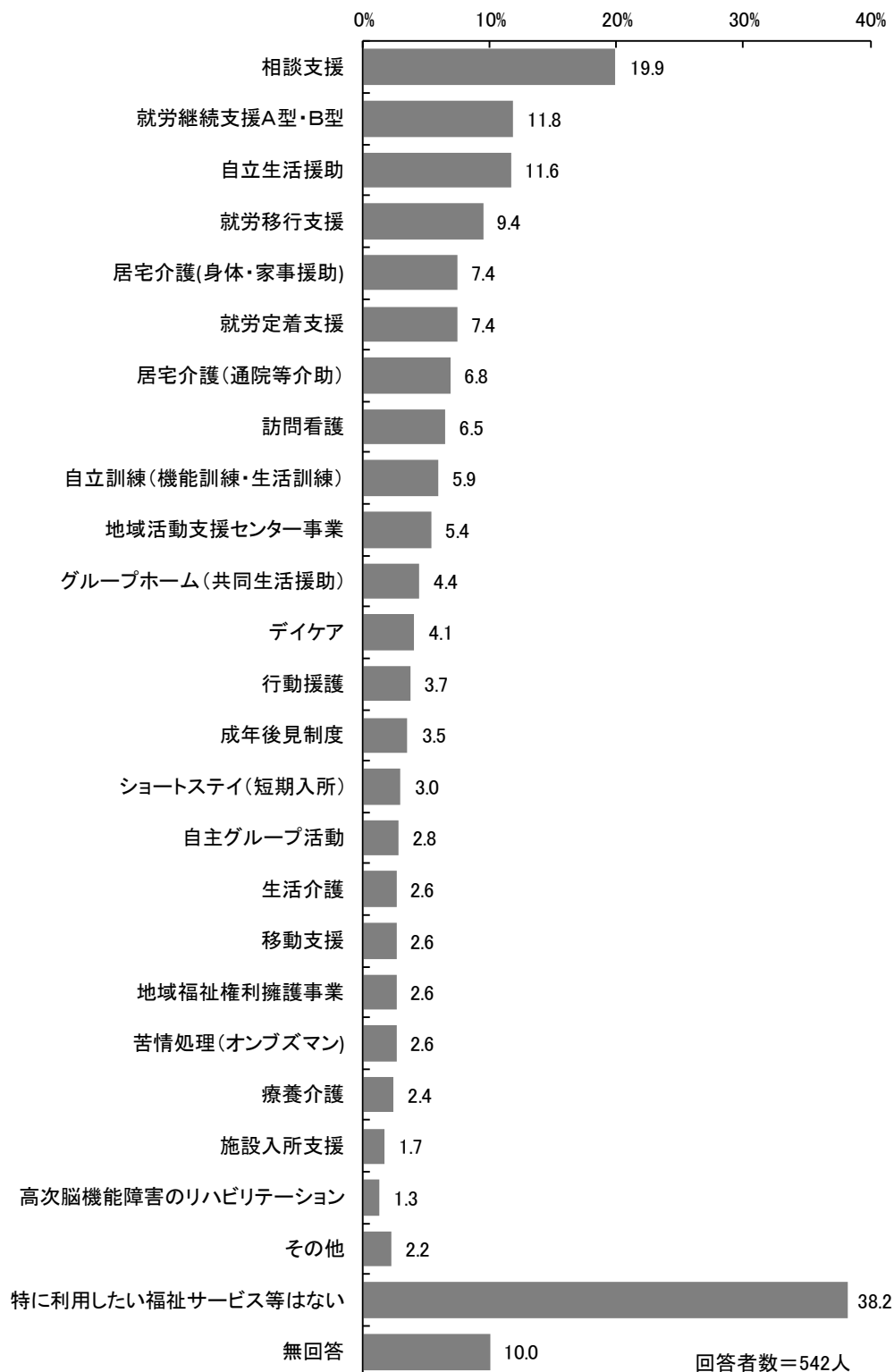


(5) 今後利用したい福祉サービス

問 25 今後利用したい福祉サービス等は何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

今後利用したい福祉サービス等は、「相談支援」が19.9%で最も高く、次いで「就労継続支援A型・B型」11.8%、「自立生活援助」11.6%となっている。

図表 III-4 3 今後利用したい福祉サービス等



障害の程度別にみると、すべての障害程度で「相談支援」が第1位となっている。3級では「自立訓練（機能訓練・生活訓練）」「就労移行支援」「就労継続支援A型・B型」「就労定着支援」の割合が他の障害程度より高くなっている。

図表 III-4 4 今後利用したい福祉サービス等（障害の程度別）

| | | 回答者数 人 | 相談支援 | 就労継続支援A型 B型 | 自立生活援助 | 就労移行支援 | 居宅介護 身体介護 家事援助 | 就労定着支援 | 居宅介護 通院等介助 | 訪問看護 | 自立訓練 機能訓練 生活訓練 | 地域活動支援センター事業 | グループホーム 共同生活援助 | デイケア | 行動援助 |
|--------|-----------|-----------|------|----------------|--------|--------|----------------------|--------|---------------|------|----------------------|--------------|-------------------|------|------|
| 全体 | | 542 | 19.9 | 11.8 | 11.6 | 9.4 | 7.4 | 7.4 | 6.8 | 6.5 | 5.9 | 5.4 | 4.4 | 4.1 | 3.7 |
| 障害の程度別 | 1級 | 18 | 22.2 | 0.0 | 11.1 | 5.6 | 11.1 | 5.6 | 22.2 | 16.7 | 5.6 | 0.0 | 11.1 | 11.1 | 16.7 |
| | 2級 | 139 | 25.9 | 18.7 | 15.8 | 10.8 | 10.8 | 9.4 | 8.6 | 10.1 | 7.9 | 10.1 | 6.5 | 8.6 | 2.9 |
| | 3級 | 130 | 25.4 | 20.8 | 14.6 | 15.4 | 6.9 | 13.1 | 6.9 | 3.1 | 8.5 | 4.6 | 3.8 | 3.8 | 5.4 |
| | 手帳は持っていない | 233 | 12.9 | 4.7 | 7.3 | 6.4 | 4.3 | 3.9 | 4.3 | 4.3 | 3.9 | 3.9 | 2.1 | 0.9 | 1.7 |

| | | 回答者数 人 | 成年後見制度 | ショートステイ 短期入所 | 自主グループ活動 | 生活介護 | 移動支援 | 地域福祉権利擁護事業 | 苦情処理 オンブズマン | 療養介護 | 施設入所支援 | 高次脳機能障害のリハビリテーション | その他 | 特に利用したい福祉サービス等はない | 無回答 |
|--------|-----------|-----------|--------|-----------------|----------|------|------|------------|----------------|------|--------|-------------------|-----|-------------------|------|
| 全体 | | 542 | 3.5 | 3.0 | 2.8 | 2.6 | 2.6 | 2.6 | 2.6 | 2.4 | 1.7 | 1.3 | 2.2 | 38.2 | 10.0 |
| 障害の程度別 | 1級 | 18 | 5.6 | 16.7 | 0.0 | 16.7 | 11.1 | 5.6 | 0.0 | 5.6 | 11.1 | 0.0 | 0.0 | 16.7 | 11.1 |
| | 2級 | 139 | 3.6 | 2.9 | 2.2 | 4.3 | 2.9 | 5.0 | 5.0 | 2.9 | 2.2 | 2.2 | 3.6 | 24.5 | 11.5 |
| | 3級 | 130 | 3.1 | 0.8 | 3.8 | 0.0 | 1.5 | 2.3 | 3.1 | 1.5 | 2.3 | 3.1 | 0.0 | 30.0 | 8.5 |
| | 手帳は持っていない | 233 | 3.4 | 3.0 | 3.0 | 0.9 | 2.1 | 0.9 | 0.9 | 2.6 | 0.4 | 0.0 | 3.0 | 52.8 | 10.7 |

単位：%

年代別にみると、すべての年代で「相談支援」が第1位となっている。

図表 III-45 今後利用したい福祉サービス等（年代別）

| | | 回答者数 人 | 相談支援 | 就労継続支援A型B型 | 自立生活援助 | 就労移行支援 | 居宅介護 身体介護 家事援助 | 就労定着支援 | 居宅介護 通院等介助 | 訪問看護 | 自立訓練 機能訓練 生活訓練 | 地域活動支援センター事業 | グループホーム 共同生活援助 | デイケア | 行動援助 |
|-----|-------------|-----------|------|------------|--------|--------|----------------------|--------|---------------|------|----------------------|--------------|-------------------|------|------|
| 全体 | | 542 | 19.9 | 11.8 | 11.6 | 9.4 | 7.4 | 7.4 | 6.8 | 6.5 | 5.9 | 5.4 | 4.4 | 4.1 | 3.7 |
| 年代別 | 就学期（5～17歳） | 9 | 33.3 | 22.2 | 33.3 | 22.2 | 11.1 | 33.3 | 11.1 | 0.0 | 22.2 | 11.1 | 11.1 | 11.1 | 0.0 |
| | 青年期（18～39歳） | 121 | 20.7 | 19.8 | 12.4 | 18.2 | 1.7 | 15.7 | 1.7 | 5.0 | 6.6 | 4.1 | 5.8 | 2.5 | 1.7 |
| | 壮年期（40～64歳） | 275 | 21.1 | 12.7 | 10.5 | 8.7 | 6.9 | 5.8 | 6.2 | 5.5 | 5.8 | 6.9 | 4.4 | 4.4 | 3.3 |
| | 高齢期（65歳以上） | 96 | 15.6 | 0.0 | 10.4 | 1.0 | 13.5 | 0.0 | 11.5 | 11.5 | 2.1 | 3.1 | 2.1 | 5.2 | 7.3 |

| | | 回答者数 人 | 成年後見制度 | ショートステイ 短期入所 | 自主グループ活動 | 生活介護 | 移動支援 | 地域福祉権利擁護事業 | 苦情処理 オンブズマン | 療養介護 | 施設入所支援 | 高次脳機能障害のリハビリテーション | その他 | 特に利用したい福祉サービス等はない | 無回答 |
|-----|-------------|-----------|--------|-----------------|----------|------|------|------------|----------------|------|--------|-------------------|------|-------------------|------|
| 全体 | | 542 | 3.5 | 3.0 | 2.8 | 2.6 | 2.6 | 2.6 | 2.6 | 2.4 | 1.7 | 1.3 | 2.2 | 38.2 | 10.0 |
| 年代別 | 就学期（5～17歳） | 9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 11.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 11.1 | 33.3 | 11.1 |
| | 青年期（18～39歳） | 121 | 2.5 | 2.5 | 1.7 | 1.7 | 3.3 | 4.1 | 2.5 | 2.5 | 0.8 | 1.7 | 1.7 | 43.0 | 7.4 |
| | 壮年期（40～64歳） | 275 | 4.7 | 1.8 | 3.3 | 2.2 | 2.9 | 2.9 | 3.6 | 2.2 | 1.5 | 1.1 | 2.5 | 39.3 | 8.4 |
| | 高齢期（65歳以上） | 96 | 3.1 | 7.3 | 3.1 | 5.2 | 0.0 | 0.0 | 1.0 | 4.2 | 4.2 | 1.0 | 2.1 | 35.4 | 10.4 |

単位：％

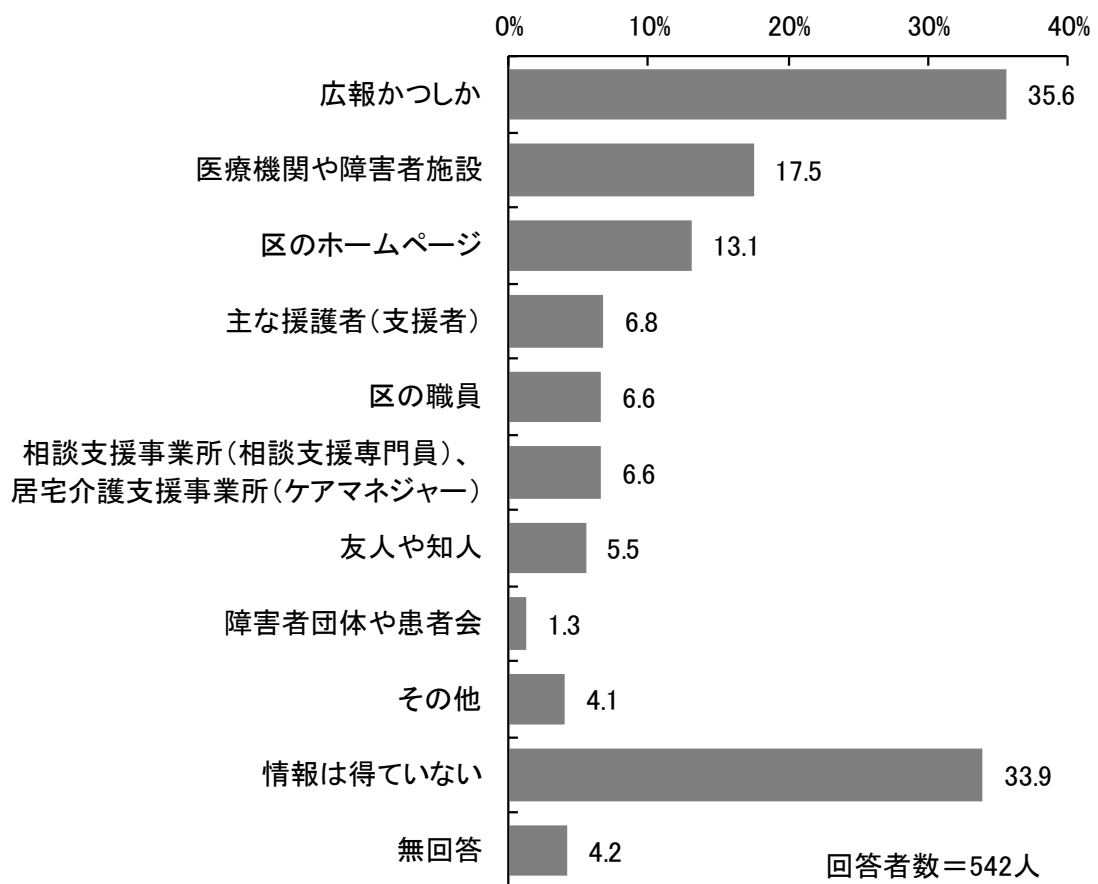
(6) 福祉サービスの情報源

問 26 福祉サービスの情報は、どこから得ていますか。(〇はあてはまるものすべて)

福祉サービスの情報源は、「広報かつしか」が 35.6%で最も高く、次いで「医療機関や障害者施設」17.5%となっている。

一方、「情報は得ていない」は 33.9%である。

図表 III-4 6 福祉サービスの情報源



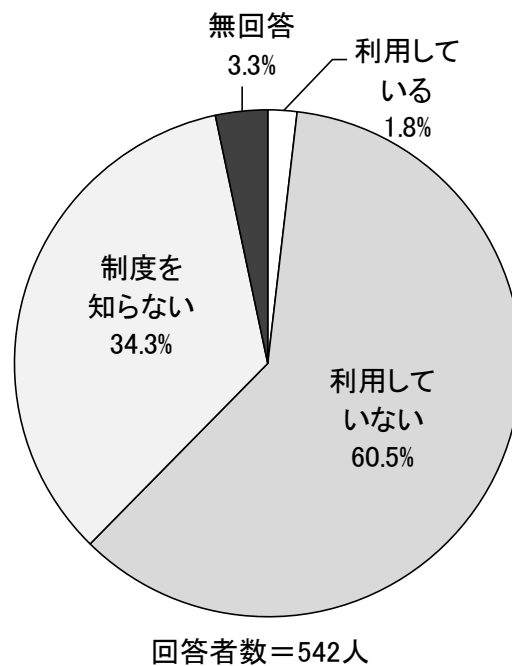
10. 成年後見制度について

(1) 成年後見制度の利用状況

問27 成年後見制度を利用していますか。(○は1つだけ)

成年後見制度の利用状況は、「利用していない」が60.5%となっている。また、「制度を知らない」が34.3%となっている。

図表 III-47 成年後見制度の利用状況



障害の程度別にみると、手帳を持っていない人では「利用していない」が66.1%、1級では「利用している」が5.6%、3級では「制度を知らない」が46.9%と、他の障害程度より高くなっている。

年代別にみると、「利用している」は年代が高くなるほど割合が高くなっている。青年期（18～39歳）では「制度を知らない」が40.5%と、他の年代より高くなっている。

図表 III-4 8 成年後見制度の利用状況（障害の程度別/年代別）

| | | 回答者数 人 | 利用 している | 利用 して いない | 制度を 知らない | 無 回答 |
|------------|-------------|-----------|------------|-----------------|-------------|---------|
| 全 体 | | 542 | 1.8 | 60.5 | 34.3 | 3.3 |
| 障害の 程度別 | 1 級 | 18 | 5.6 | 55.6 | 16.7 | 22.2 |
| | 2 級 | 139 | 2.9 | 60.4 | 32.4 | 4.3 |
| | 3 級 | 130 | 0.8 | 50.0 | 46.9 | 2.3 |
| | 手帳は持っていない | 233 | 1.3 | 66.1 | 30.5 | 2.1 |
| 年代別 | 就学期（5～17歳） | 9 | 0.0 | 77.8 | 22.2 | 0.0 |
| | 青年期（18～39歳） | 121 | 0.8 | 57.0 | 40.5 | 1.7 |
| | 壮年期（40～64歳） | 275 | 1.5 | 60.4 | 34.5 | 3.6 |
| | 高齢期（65歳以上） | 96 | 3.1 | 71.9 | 20.8 | 4.2 |

単位：%

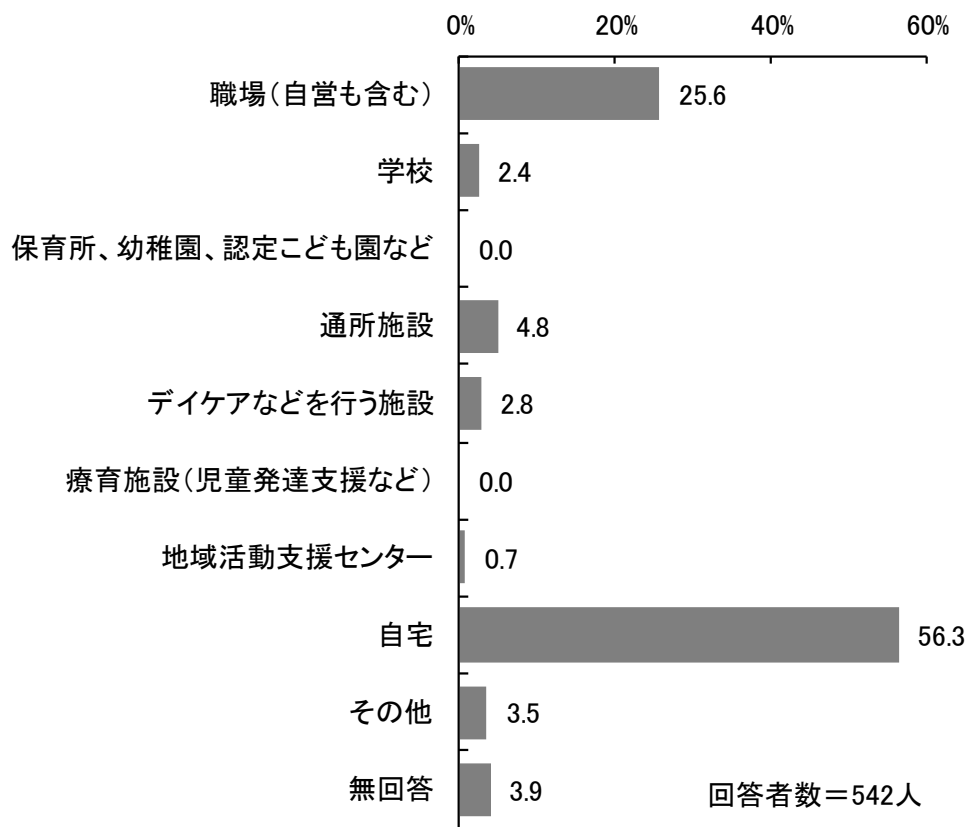
11. 社会参加などについて

(1) 平日の日中の、主な活動場所

問28 この1年間あなたは、平日の日中、主にどこで過ごしましたか。(〇は1つだけ)

平日の日中の、主な活動場所は、「自宅」が56.3%で、半数以上を占めている。次いで「職場（自営も含む）」25.6%となっている。

図表 III-49 平日の日中の、主な活動場所



障害の程度別にみると、すべての障害程度で「自宅」が第1位となっている。1級では「デイケアなどを行う施設」が11.1%、手帳を持っていない方では「職場(自営も含む)」が34.8%と、他の障害程度より高くなっている。

年代別にみると、就学期(5~17歳)では「学校」が、青年期(18~39歳)、壮年期(40~64歳)、高齢期(65歳以上)では「自宅」が第1位となっている。青年期(18~39歳)、壮年期(40~64歳)では「職場(自営も含む)」が他の年代より高くなっている。

図表 III-50 平日の日中の、主な活動場所(障害の程度別/年代別)

| | | 回答者数 人 | 職場 自営も含む | 学校 | 保育所 認定こども園など | 通所施設 | デイケアなどを行う施設 | (児童発達支援など 療育施設) | 地域活動支援センター | 自宅 | その他 | 無回答 |
|--------|-------------|-----------|-------------|------|-----------------|------|-------------|--------------------|------------|------|------|------|
| 全体 | | 542 | 25.6 | 2.4 | 0.0 | 4.8 | 2.8 | 0.0 | 0.7 | 56.3 | 3.5 | 3.9 |
| 障害の程度別 | 1級 | 18 | 5.6 | 0.0 | 0.0 | 5.6 | 11.1 | 0.0 | 0.0 | 44.4 | 22.2 | 11.1 |
| | 2級 | 139 | 16.5 | 1.4 | 0.0 | 5.8 | 1.4 | 0.0 | 1.4 | 64.0 | 5.8 | 3.6 |
| | 3級 | 130 | 24.6 | 3.8 | 0.0 | 6.2 | 1.5 | 0.0 | 0.8 | 56.2 | 2.3 | 4.6 |
| | 手帳は持っていない | 233 | 34.8 | 2.6 | 0.0 | 3.4 | 3.0 | 0.0 | 0.4 | 51.5 | 1.3 | 3.0 |
| 年代別 | 就学期(5~17歳) | 9 | 0.0 | 66.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 33.3 | 0.0 | 0.0 |
| | 青年期(18~39歳) | 121 | 38.8 | 5.8 | 0.0 | 7.4 | 1.7 | 0.0 | 0.0 | 39.7 | 2.5 | 4.1 |
| | 壮年期(40~64歳) | 275 | 28.4 | 0.0 | 0.0 | 4.7 | 2.9 | 0.0 | 1.1 | 56.4 | 2.9 | 3.6 |
| | 高齢期(65歳以上) | 96 | 5.2 | 0.0 | 0.0 | 2.1 | 5.2 | 0.0 | 1.0 | 76.0 | 7.3 | 3.1 |

単位：%

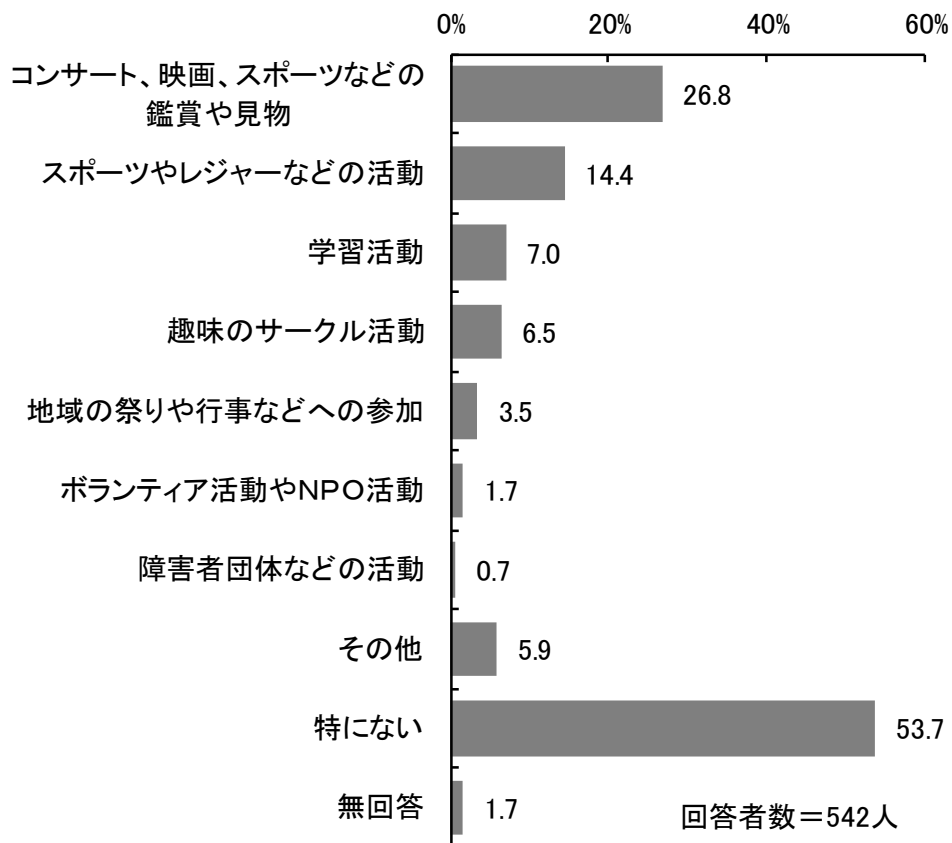
(2) 趣味や学習、スポーツ、社会活動などの活動

問 29 あなたは、この1年間に趣味や学習、スポーツ、社会活動などの活動をしましたか。
(○はあてはまるものすべて)

趣味や学習、スポーツ、社会活動などの活動は、「コンサート、映画、スポーツなどの鑑賞や見物」が26.8%で最も高く、次いで「スポーツやレジャーなどの活動」14.4%、「学習活動」7.0%となっている。

一方、「特にない」は53.7%である。

図表 III-5 1 趣味や学習、スポーツ、社会活動などの活動



障害の程度別にみると、1級では「地域の祭りや行事などへの参加」「障害者団体などの活動」が他の障害程度より割合が高くなっている。

年代別にみると、青年期（18～39歳）では「コンサート、映画、スポーツなどの鑑賞や見物」が47.1%と、他の年代より高くなっている。

年代が高くなるほど「特にない」の割合が高くなっている。

図表 III-5 2 趣味や学習、スポーツ、社会活動などの活動（障害の程度別/年代別）

| | | 回答者数 人 | コンサート、映画、スポーツ などの鑑賞や見物 | スポーツやレジャーなどの活動 | 学習活動 | 趣味のサークル活動 | 地域の祭りや行事などの 参加 | ボランティア活動やNPO活動 | 障害者団体などの活動 | その他 | 特にない | 無回答 |
|--------|-------------|-----------|---------------------------|----------------|------|-----------|-------------------|----------------|------------|------|------|------|
| 全体 | | 542 | 26.8 | 14.4 | 7.0 | 6.5 | 3.5 | 1.7 | 0.7 | 5.9 | 53.7 | 1.7 |
| 障害の程度別 | 1級 | 18 | 5.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 5.6 | 0.0 | 5.6 | 0.0 | 77.8 | 11.1 |
| | 2級 | 139 | 20.9 | 12.9 | 5.0 | 5.8 | 4.3 | 1.4 | 0.7 | 7.2 | 59.0 | 2.2 |
| | 3級 | 130 | 30.0 | 8.5 | 10.8 | 6.9 | 2.3 | 3.1 | 0.8 | 6.2 | 51.5 | 1.5 |
| | 手帳は持っていない | 233 | 30.9 | 20.2 | 6.9 | 6.4 | 3.4 | 0.9 | 0.4 | 6.0 | 48.5 | 0.4 |
| 年代別 | 就学期（5～17歳） | 9 | 33.3 | 33.3 | 66.7 | 22.2 | 11.1 | 22.2 | 0.0 | 11.1 | 0.0 | 0.0 |
| | 青年期（18～39歳） | 121 | 47.1 | 19.0 | 9.9 | 11.6 | 4.1 | 3.3 | 1.7 | 5.0 | 37.2 | 0.8 |
| | 壮年期（40～64歳） | 275 | 25.8 | 16.0 | 6.5 | 2.9 | 4.4 | 1.1 | 0.4 | 6.5 | 53.8 | 1.8 |
| | 高齢期（65歳以上） | 96 | 7.3 | 5.2 | 2.1 | 11.5 | 1.0 | 0.0 | 1.0 | 2.1 | 72.9 | 2.1 |

単位：%

(3) この1年間にスポーツを行った頻度と障害者スポーツを行った経験

問30 あなたは、この1年間にスポーツ（学校体育を除く）をどれくらい行いましたか。

(○は1つだけ)

★ 問31は、問30で「1.週に3日以上」「2.週に1～2日」「3.月に1～3日」「4.3か月に1～2日」「5.年に1～3日」のいずれかに○をした方

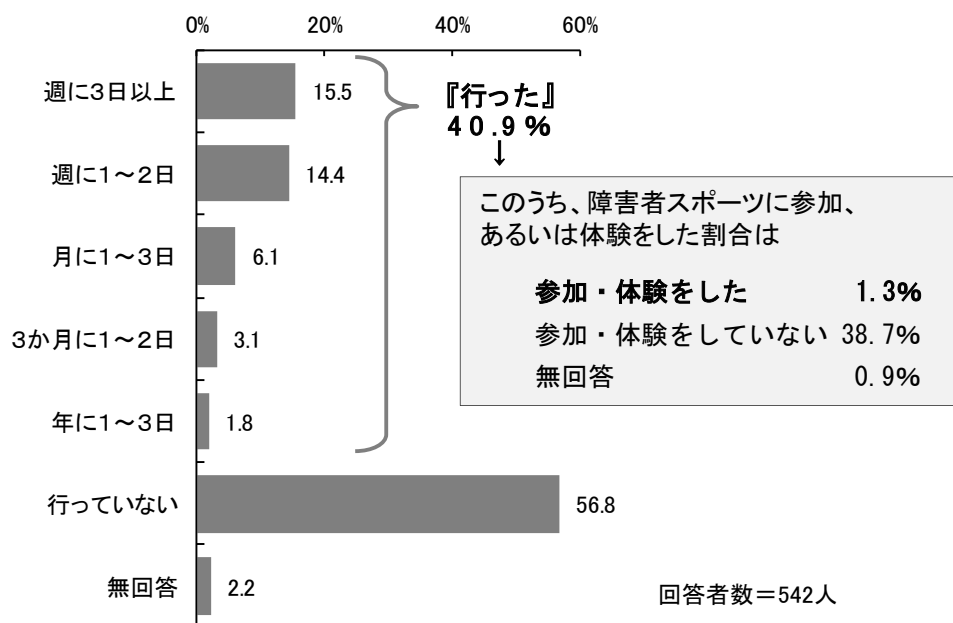
問31 あなたは、この1年間に障害者スポーツ（ボッチャ、ブラインドサッカー、フロアホッケーなど）に参加、あるいは体験をしたことがありますか。(○は1つだけ)

この1年間にスポーツを行った頻度は、「週に3日以上」が15.5%で最も高く、次いで「週に1～2日」14.4%、「月に1～3日」6.1%となっている。年齢別にみると、スポーツを『行った』人は、19歳以下で64.7%、20歳以上で41.1%である。

一方、「行っていない」は56.8%である。

この1年間にスポーツを『行った』40.9%（222人）の内、障害者スポーツを行った経験について、回答者全体の1.3%が「参加、あるいは体験をした」、38.7%が「参加、あるいは体験をしていない」と回答している。

図表 III-53 この1年間にスポーツを行った頻度と障害者スポーツを行った経験



※『行った』=「週に3日以上」+「週に1～2日」+「月に1～3日」+「3か月に1～2日」+「年に1～3日」

*スポーツとは、サッカーや野球など競技スポーツだけでなく、ウォーキングや体操、ストレッチ、散歩、自転車などの20分程度の運動も含まれます。

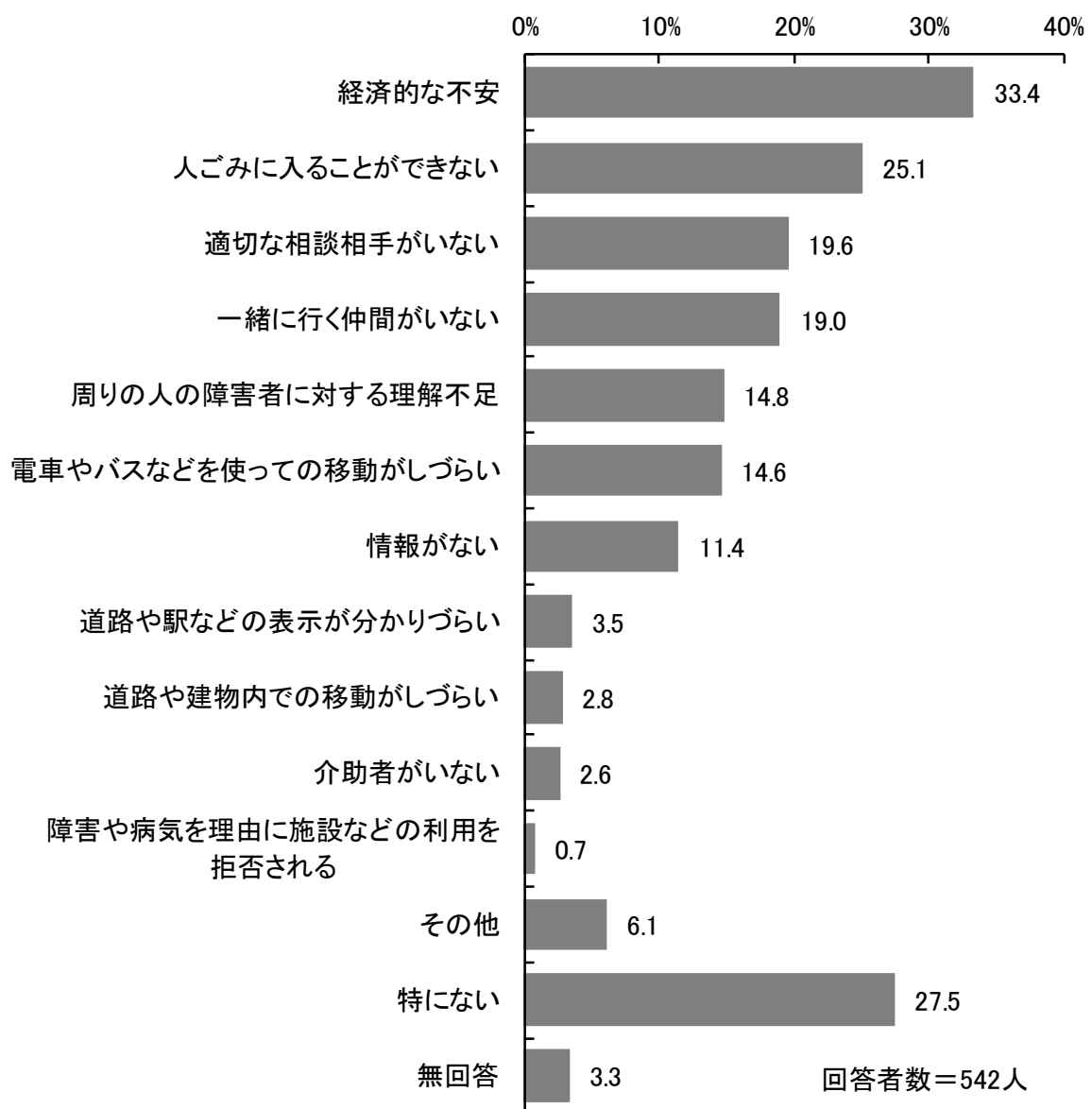
(4) 日常生活や社会参加で妨げになっていること

問 32 あなたが日常生活や社会参加をするうえで、特に妨げになっていることはありますか。
(○は3つまで)

日常生活や社会参加で妨げになっていることは、「経済的な不安」が 33.4%で最も高く、次いで「人ごみに入ることができない」25.1%となっている。

一方、「特にない」は 27.5%である。

図表 III-5 4 日常生活や社会参加で妨げになっていること



障害の程度別にみると、2級、3級、手帳を持っていない方で「経済的な不安」の割合が第1位となっているが、1級では「人ごみに入ることができない」が第1位となっている。

図表 III-55 日常生活や社会参加で妨げになっていること（障害の程度別）

| | | 回答者数人 | 経済的な不安 | 人ごみに入ることができない | 適切な相談相手がない | 一緒に行く仲間がない | 周りの人の障害者に対する理解不足 | 電車やバスなどを使つての移動がしづらい | 情報が無い |
|--------|-----------|-------|--------|---------------|------------|------------|------------------|---------------------|-------|
| 全体 | | 542 | 33.4 | 25.1 | 19.6 | 19.0 | 14.8 | 14.6 | 11.4 |
| 障害の程度別 | 1級 | 18 | 11.1 | 33.3 | 16.7 | 11.1 | 16.7 | 27.8 | 11.1 |
| | 2級 | 139 | 39.6 | 28.8 | 23.7 | 23.0 | 20.9 | 18.0 | 15.8 |
| | 3級 | 130 | 42.3 | 33.8 | 26.9 | 21.5 | 19.2 | 17.7 | 13.1 |
| | 手帳は持っていない | 233 | 27.9 | 18.0 | 14.2 | 15.9 | 9.4 | 10.3 | 7.3 |

| | | 回答者数人 | 道路や駅などの表示が分かりづらい | 道路や建物内での移動がしづらい | 介助者がいない | 障害や病気を理由に施設などの利用を拒否される | その他 | 特になし | 無回答 |
|--------|-----------|-------|------------------|-----------------|---------|------------------------|------|------|-----|
| 全体 | | 542 | 3.5 | 2.8 | 2.6 | 0.7 | 6.1 | 27.5 | 3.3 |
| 障害の程度別 | 1級 | 18 | 5.6 | 11.1 | 16.7 | 0.0 | 22.2 | 11.1 | 0.0 |
| | 2級 | 139 | 4.3 | 2.9 | 1.4 | 0.7 | 6.5 | 15.8 | 4.3 |
| | 3級 | 130 | 2.3 | 1.5 | 0.8 | 1.5 | 4.6 | 22.3 | 1.5 |
| | 手帳は持っていない | 233 | 3.4 | 2.6 | 2.1 | 0.4 | 5.6 | 38.2 | 3.4 |

単位：%

年代別にみると、青年期（18～39歳）、壮年期（40～64歳）では「経済的な不安」、就学期（5～17歳）では「人ごみに入ることができない」、高齢期（65歳以上）では「電車やバスなどを使っての移動がしづらい」が第1位となっている。

図表 III-56 日常生活や社会参加で妨げになっていること（年代別）

| | | 回答者数 人 | 経済的な不安 | 人ごみに入ることができない | 適切な相談相手がない | 一緒に行く仲間がない | 周りの人の障害者に対する理解不足 | 電車やバスなどを使っての移動がしづらい | 情報がない |
|-----|-------------|-----------|--------|---------------|------------|------------|------------------|---------------------|-------|
| 全体 | | 542 | 33.4 | 25.1 | 19.6 | 19.0 | 14.8 | 14.6 | 11.4 |
| 年代別 | 就学期（5～17歳） | 9 | 22.2 | 33.3 | 11.1 | 22.2 | 11.1 | 11.1 | 11.1 |
| | 青年期（18～39歳） | 121 | 43.0 | 27.3 | 25.6 | 26.4 | 26.4 | 7.4 | 14.0 |
| | 壮年期（40～64歳） | 275 | 37.1 | 27.3 | 20.4 | 19.6 | 13.5 | 16.4 | 11.3 |
| | 高齢期（65歳以上） | 96 | 12.5 | 14.6 | 7.3 | 7.3 | 5.2 | 18.8 | 10.4 |

| | | 回答者数 人 | 道路や駅などの表示が分かりづらい | 道路や建物内での移動がしづらい | 介助者がいない | 障害や病気を理由に施設などの利用を拒否される | その他 | 特になし | 無回答 |
|-----|-------------|-----------|------------------|-----------------|---------|------------------------|------|------|-----|
| 全体 | | 542 | 3.5 | 2.8 | 2.6 | 0.7 | 6.1 | 27.5 | 3.3 |
| 年代別 | 就学期（5～17歳） | 9 | 11.1 | 0.0 | 0.0 | 11.1 | 11.1 | 22.2 | 0.0 |
| | 青年期（18～39歳） | 121 | 1.7 | 0.8 | 0.8 | 0.8 | 5.8 | 21.5 | 2.5 |
| | 壮年期（40～64歳） | 275 | 3.6 | 2.5 | 2.2 | 0.7 | 7.6 | 25.1 | 2.5 |
| | 高齢期（65歳以上） | 96 | 5.2 | 7.3 | 6.3 | 0.0 | 3.1 | 42.7 | 6.3 |

単位：％

12. 地震などの災害について

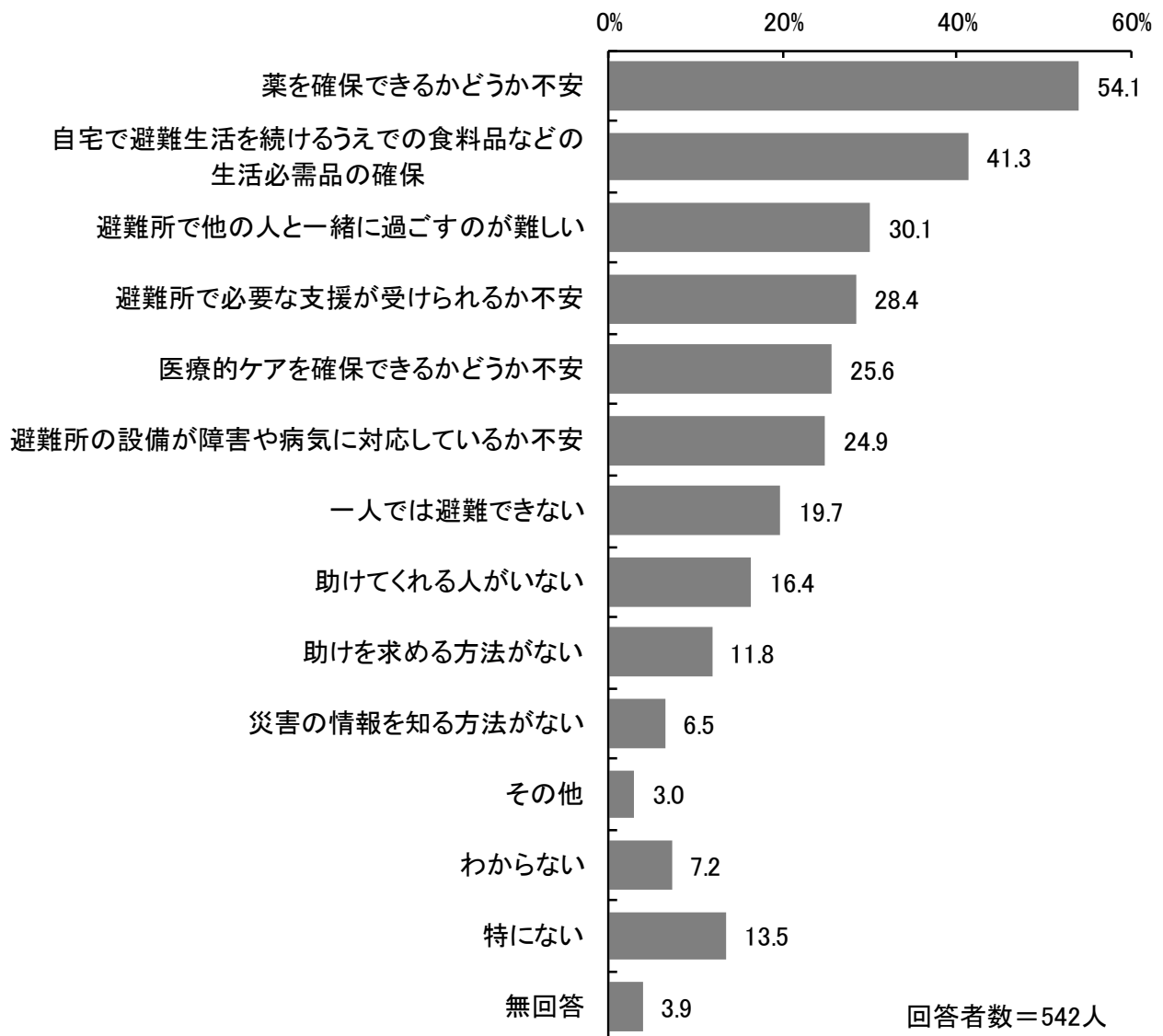
(1) 災害が発生したときに困ることや不安なこと

問 33 地震などの災害が発生したときに困ることや不安なことは何ですか。

(○はあてはまるものすべて)

災害が発生したときに困ることや不安なことは、「薬を確保できるかどうか不安」が54.1%で最も高く、次いで「自宅で避難生活をするうえでの食料品などの生活必需品の確保」41.3%、「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」30.1%となっている。

図表 III-57 災害が発生したときに困ることや不安なこと



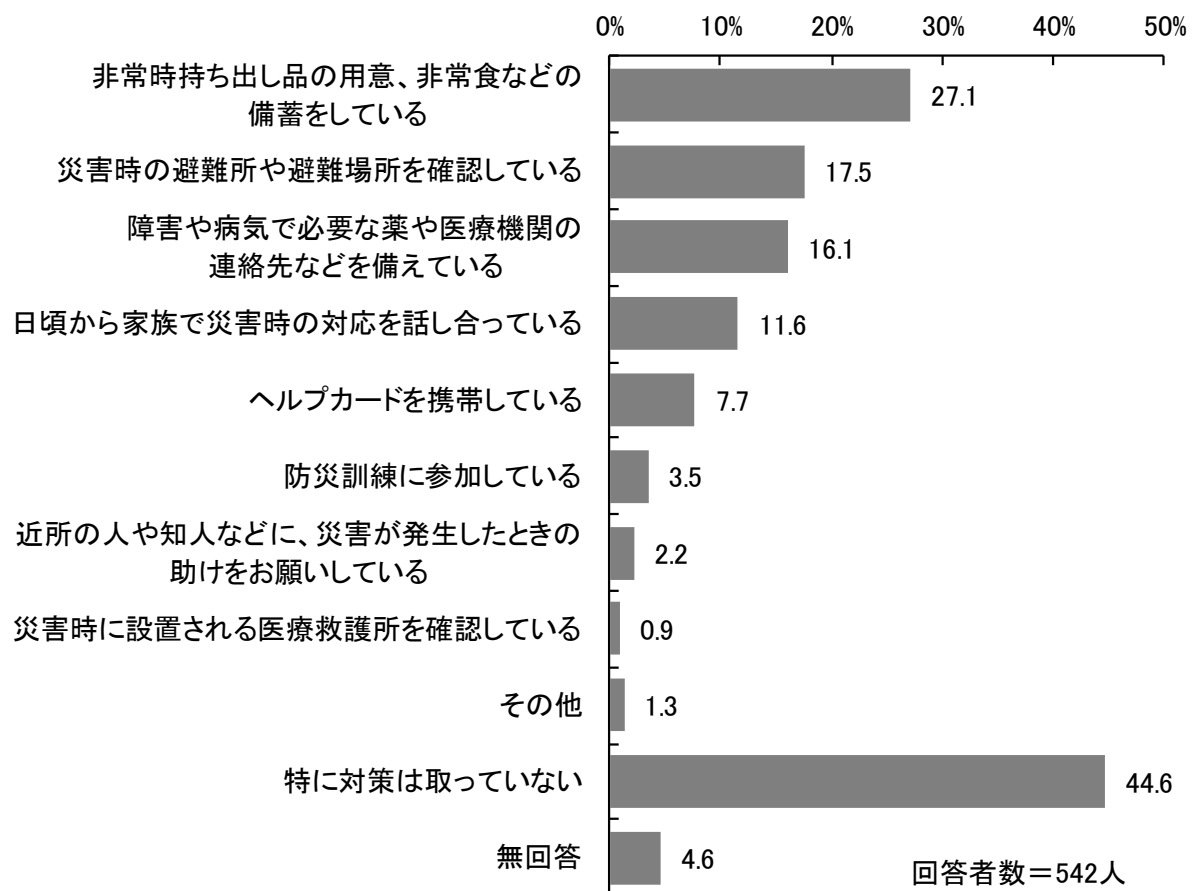
(2) 災害に対して備えていること

問 34 災害に対してどのような備えをしていますか。(〇はあてはまるものすべて)

災害に対して備えていることは、「非常時持ち出し品の用意、非常食などの備蓄をしている」が27.1%で最も高く、次いで「災害時の避難所や避難場所を確認している」17.5%となっている。

一方、「特に対策は取っていない」は44.6%である。

図表 III-58 災害に対して備えていること



13. 日常や今後の暮らしについて

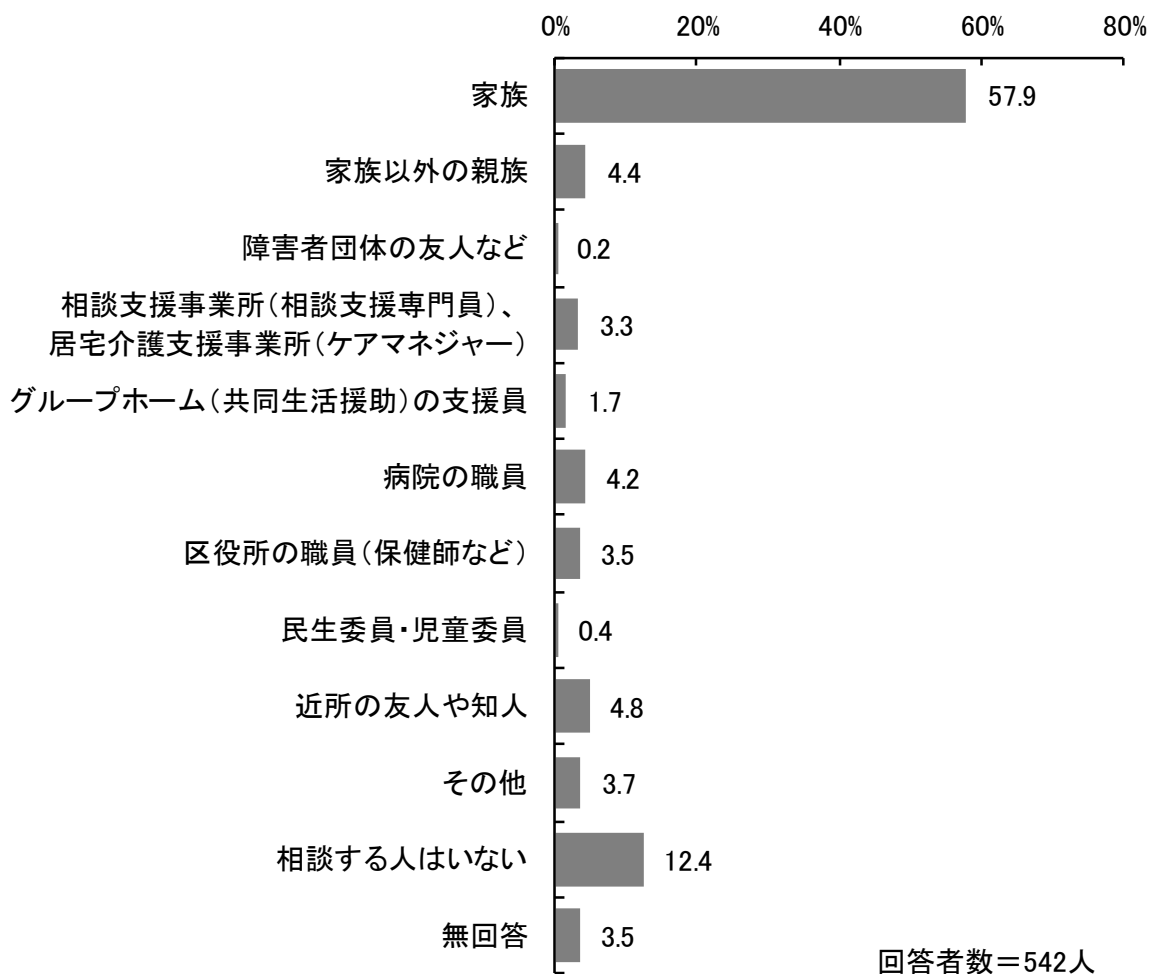
(1) 困ったことがある場合の相談相手

問 35 何か困ったことがある場合、相談する人はだれですか。(〇は主な相談者に1つだけ)

困ったことがある場合の相談相手は、「家族」が57.9%で最も高く、次いで「近所の友人や知人」4.8%、「家族以外の親族」4.4%となっている。

一方、「相談する人はいない」は12.4%である。

図表 III-59 困ったことがある場合の相談相手



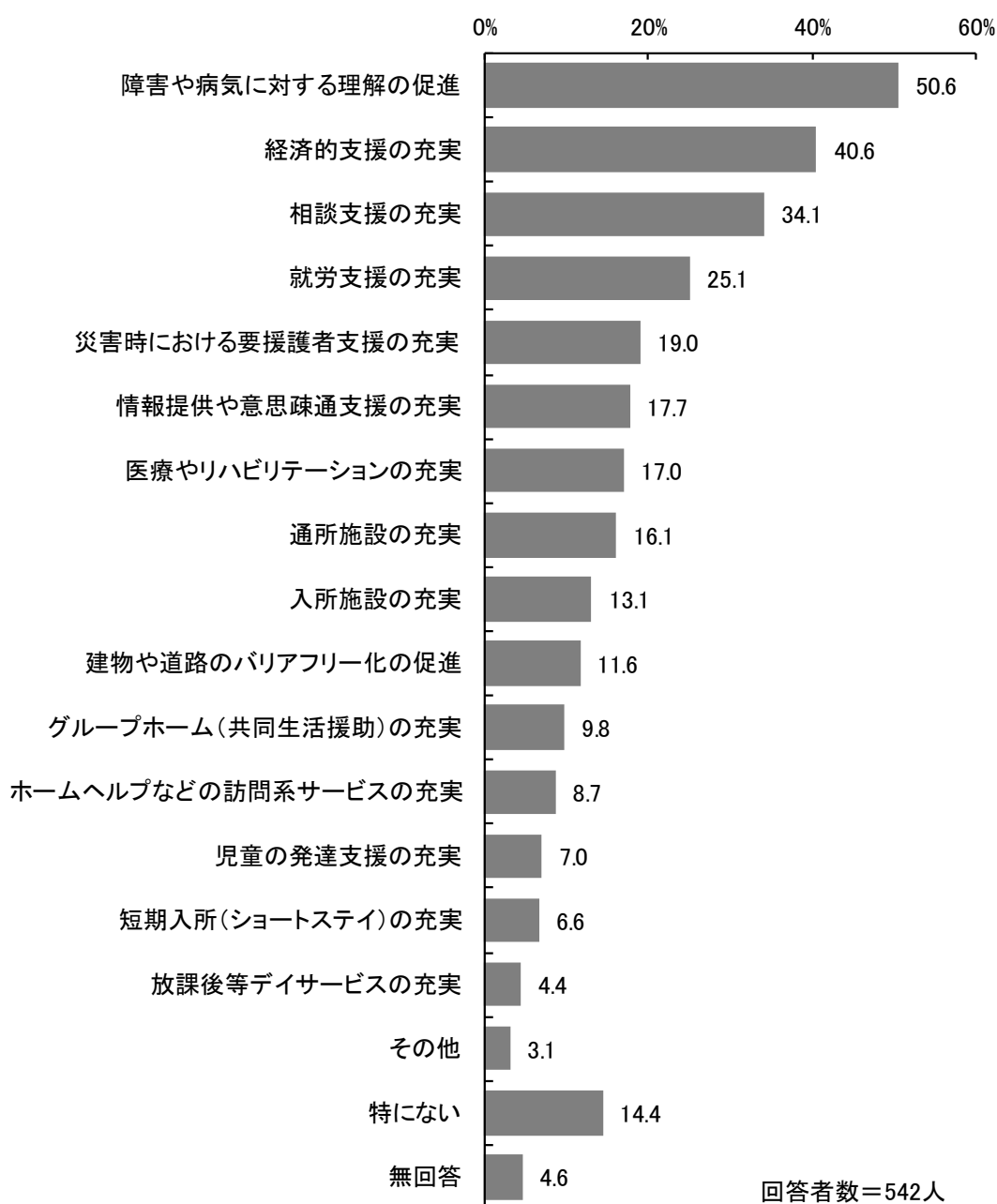
(2) 地域で安心して暮らしていくために重要なこと

問 36 地域で安心して暮らしていくためには、どのようなことが重要だと思いますか。

(○はあてはまるものすべて)

地域で安心して暮らしていくために重要なことは、「障害や病気に対する理解の促進」が50.6%で最も高く、次いで「経済的支援の充実」40.6%、「相談支援の充実」34.1%となっている。

図表 III-60 地域で安心して暮らしていくために重要なこと

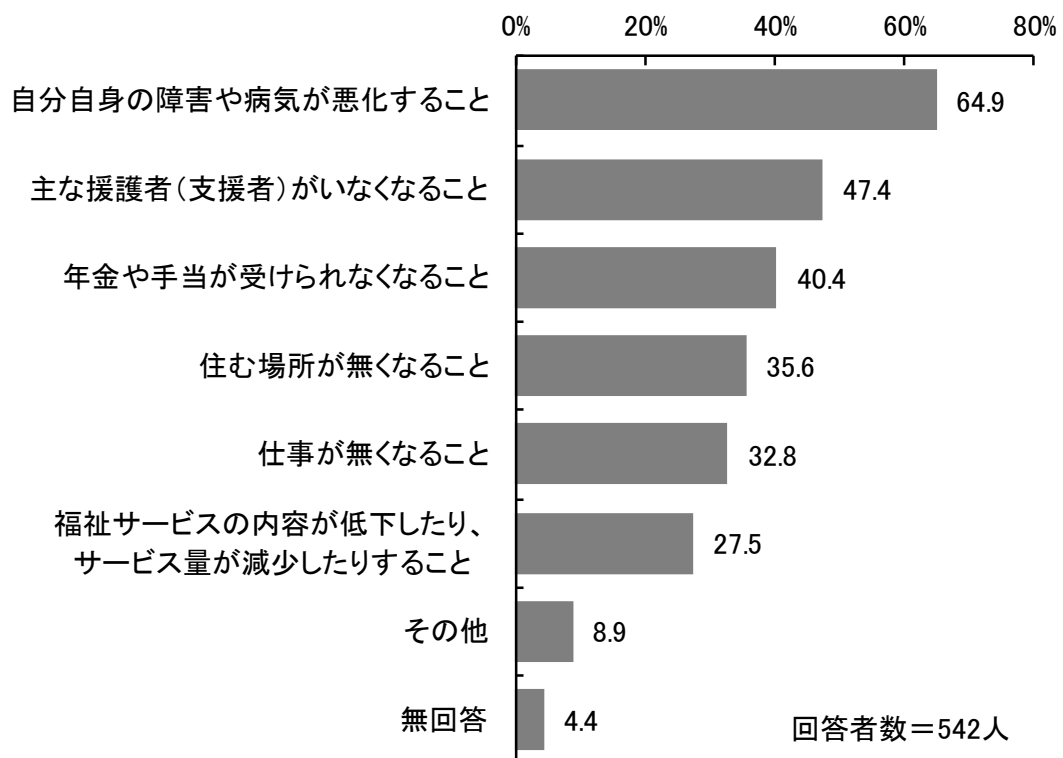


(3) 将来不安なこと

問37 将来、不安なことは何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

将来不安なことは、「自分自身の障害や病気が悪化すること」が64.9%で最も高く、次いで「主な援護者(支援者)がいなくなること」47.4%、「年金や手当が受けられなくなること」40.4%となっている。

図表 III-6 1 将来不安なこと



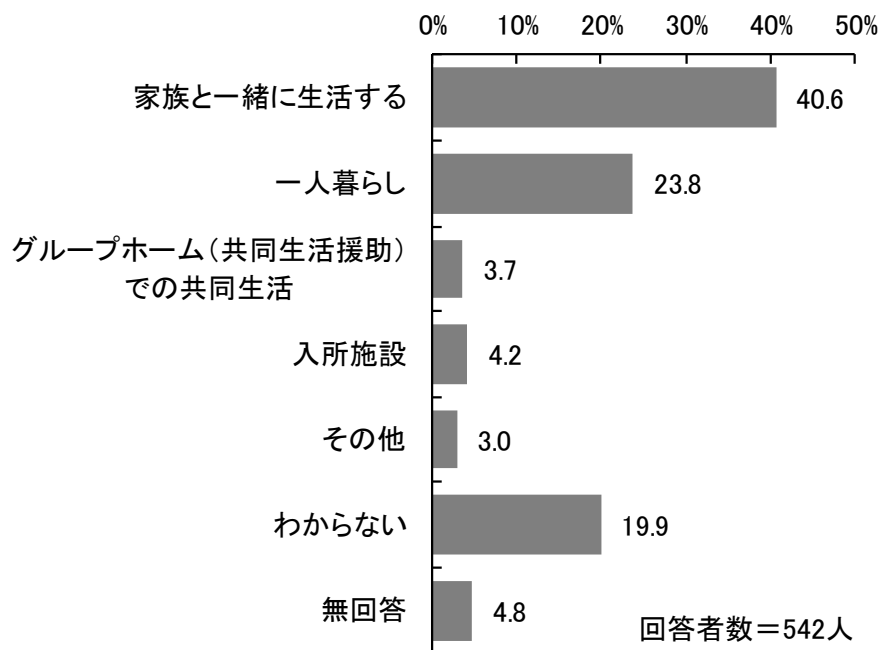
(4) 将来望む暮らし方

問 38 将来はどのような暮らし方を望んでいますか。(〇は1つだけ)

将来望む暮らし方は、「家族と一緒に生活する」が40.6%で最も高く、次いで「一人暮らし」23.8%となっている。

一方、「わからない」が19.9%である。

図表 III-6 2 将来望む暮らし方



障害の程度別にみると、すべての障害程度で「家族と一緒に生活する」が第1位となっている。1級では「入所施設」が22.2%、1級以外では「一人暮らし」の割合が高くなっている。

年代別でみると、すべての年代で「家族と一緒に生活する」が第1位で、高齢期（65歳以上）では「入所施設」が他の年代より割合が高くなっている。

図表 III-63 将来望む暮らし方（障害の程度別/年代別）

| | | 回答者数 人 | 家族と一緒に生活する | 一人暮らし | グループホーム 共同生活 援助での共同生活 | 入所施設 | その他 | わからない | 無回答 |
|--------|-------------|-----------|------------|-------|-----------------------------|------|-----|-------|------|
| 全体 | | 542 | 40.6 | 23.8 | 3.7 | 4.2 | 3.0 | 19.9 | 4.8 |
| 障害の程度別 | 1級 | 18 | 38.9 | 5.6 | 5.6 | 22.2 | 0.0 | 16.7 | 11.1 |
| | 2級 | 139 | 41.0 | 24.5 | 5.0 | 2.9 | 4.3 | 19.4 | 2.9 |
| | 3級 | 130 | 38.5 | 25.4 | 2.3 | 3.1 | 2.3 | 22.3 | 6.2 |
| | 手帳を持っていない | 233 | 41.2 | 23.6 | 2.6 | 3.9 | 3.0 | 20.6 | 5.2 |
| 年代別 | 就学期（5～17歳） | 9 | 44.4 | 22.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 22.2 | 11.1 |
| | 青年期（18～39歳） | 121 | 36.4 | 28.9 | 3.3 | 0.0 | 3.3 | 28.1 | 0.0 |
| | 壮年期（40～64歳） | 275 | 41.1 | 24.4 | 5.5 | 2.5 | 3.3 | 17.1 | 6.2 |
| | 高齢期（65歳以上） | 96 | 41.7 | 17.7 | 1.0 | 15.6 | 3.1 | 14.6 | 6.3 |

単位：%

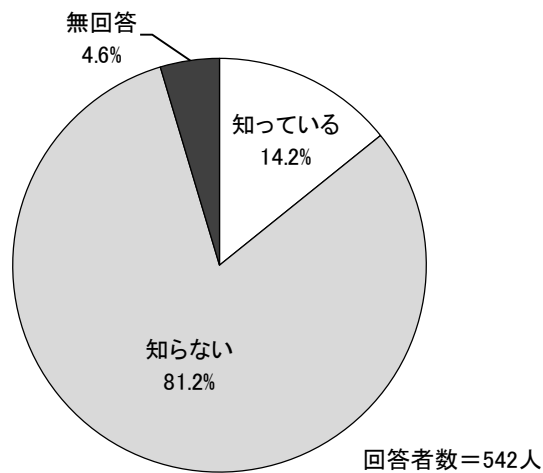
14. 虐待防止、差別解消について

(1) 区の虐待対応窓口の認知

問 39 養護者や通所先の施設職員、勤め先の職員などから虐待を受けた場合に、区役所に対応窓口があることを知っていますか。(〇は1つだけ)

区の虐待対応窓口の認知は、「知っている」が14.2%、「知らない」が81.2%となっている。

図表 III-6 4 区の虐待対応窓口の認知



年代別にみると、就学期（5～17歳）は「知っている」が22.2%と、他の年代より割合が高くなっている。

図表 III-6 5 区の虐待対応窓口の認知（障害の程度別/年代別）

| | | 回答者数 人 | 知 て い る | 知 ら な い | 無 回 答 |
|----------------------------|-------------|-----------|------------------|------------------|-------------|
| 全 体 | | 542 | 14.2 | 81.2 | 4.6 |
| 障 害 の 程 度 別 | 1 級 | 18 | 11.1 | 83.3 | 5.6 |
| | 2 級 | 139 | 14.4 | 82.0 | 3.6 |
| | 3 級 | 130 | 16.2 | 79.2 | 4.6 |
| | 手帳を持っていない | 233 | 13.3 | 81.1 | 5.6 |
| 年 代 別 | 就学期（5～17歳） | 9 | 22.2 | 66.7 | 11.1 |
| | 青年期（18～39歳） | 121 | 18.2 | 81.0 | 0.8 |
| | 壮年期（40～64歳） | 275 | 12.7 | 81.5 | 5.8 |
| | 高齢期（65歳以上） | 96 | 12.5 | 81.3 | 6.3 |

単位：%

(2) 障害や病気を理由として不当に差別を受けたと感じたことの有無

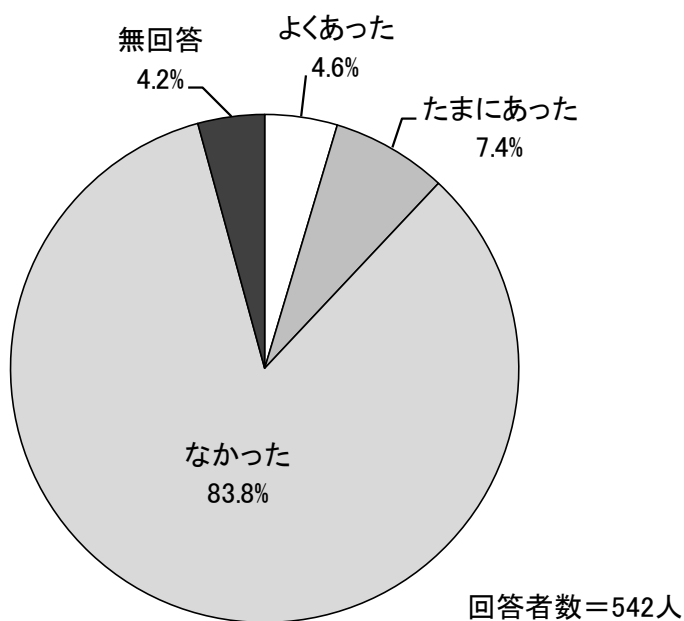
問 40 過去1年間に、障害や病気を理由として不当に差別を受けたと感じたことはありましたか。(○は1つだけ)

★ 問 40-①は、問 40で「1.よくあった」「2.たまにあった」のいずれかに○をした方
問 40-① それは具体的にどのようなことでしたか。

過去1年間に、障害や病気を理由として不当に差別を受けたと感じたことの有無は、「たまにあった」が7.4%、「よくあった」が4.6%となっている。

一方、「なかった」は83.8%である。

図表 III-66 障害や病気を理由として不当に差別を受けたと感じたことの有無



『あった』（「よくあった」＋「たまにあった」）の割合をみると、障害の程度別では1級が33.4%、年代別では壮年期（40～64歳）が13.9%と割合が高くなっている。

図表 III-6 7 障害や病気を理由として不当に差別を受けたと感じたことの有無
（障害の程度別/年代別）

| | | 回答者数 人 | よく あった | たまに あった | な か ら た | 無 回 答 | 『あ っ た』 |
|----------------------------|-------------|-----------|-----------|------------|------------------|-------------|---------------|
| 全 体 | | 542 | 4.6 | 7.4 | 83.8 | 4.2 | 12.0 |
| 障 害 の 程 度 別 | 1 級 | 18 | 16.7 | 16.7 | 61.1 | 5.6 | 33.4 |
| | 2 級 | 139 | 5.8 | 10.1 | 82.0 | 2.2 | 15.9 |
| | 3 級 | 130 | 6.2 | 8.5 | 80.0 | 5.4 | 14.7 |
| | 手帳を持っていない | 233 | 2.1 | 4.7 | 88.4 | 4.7 | 6.8 |
| 年 代 別 | 就学期（5～17歳） | 9 | 11.1 | 0.0 | 77.8 | 11.1 | 11.1 |
| | 青年期（18～39歳） | 121 | 4.1 | 9.1 | 86.0 | 0.8 | 13.2 |
| | 壮年期（40～64歳） | 275 | 5.5 | 8.4 | 80.4 | 5.8 | 13.9 |
| | 高齢期（65歳以上） | 96 | 2.1 | 2.1 | 91.7 | 4.2 | 4.2 |

単位：%

『あった』＝「よくあった」＋「たまにあった」

以下は、『障害や病気を理由として不当に差別を受けたと感じた』具体的内容(総数 60 件)の抜粋である。原文を基に一部要約し掲載している。

①職場において(19 件)

- 同じ仕事をしていても障害者雇用だと給料が安い。
- 仕事でお客さんにいろいろ言われる。
- ヘルプマークをつけているだけで、仕事に来なくていいとバイト先で言われた。
- 仕事の面接をした時、病気(障害者)だということで断られる事があった。
- 派遣会社への登録時、今まで病気で働けなかった旨を伝えると、登録拒否や仕事をもらえることがなくなった。能力より健康な人が優先。
- 劣った者、能力の低い者としてしか認識されず、下働きのようなことばかりさせられる。上司に相手にされない。話を聞いてもらえない。

②周囲の無理解(17 件)

- 親族に病気を理解されずののしられた。
- 人によってうつや障害の標準が違うことがわかってもらえない。
- 障害者手帳を提示した際、見た目障害者に見えないという理由でサービスを受けられなかった。

③暴力、暴言、いやがらせ(12 件)

- 具合が悪いのに嘘をついているとか、陰口を言われたりした。
- ヘルプマークをつけて外出すると、知らない人から悪口を言われたり、突き飛ばされたりすることが時々あった。

④保険の加入(2件)

- 生命保険加入の際に向精神薬を飲んでいるということで保険に入らず、疾病ありの方が入れる保険になってしまい、何かあった時の保険金がかなり少ないものになってしまった。

⑤その他(10 件)

- 足の装具があるからグループホームへ入ることができなかった。
- コロナに罹患したら入院は難しいと言われた。
- 役所にて、障害者手帳の更新や、自立支援の更新時に高圧的な対応をされた。

(3) 生活しづらい原因を取り除いてもらったと感じたことの有無

問 41 過去1年間に、日常生活や社会生活を送るうえで、生活しづらい原因を取り除いてもらったことはありましたか。(○は1つだけ)

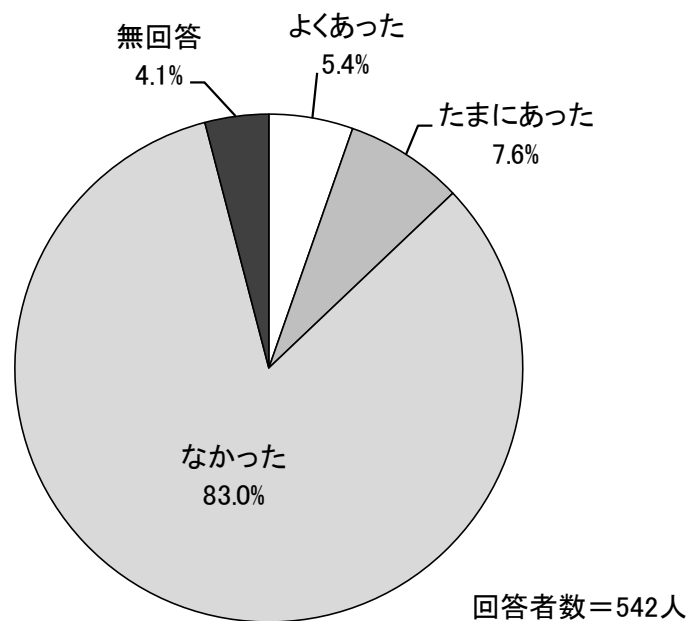
★ 問 41-①は、問 41 で「1.よくあった」「2.たまにあった」のいずれかに○をした方

問 41-① それは具体的にどのようなことでしたか。

生活しづらい原因を取り除いてもらったと感じたことの有無は、「たまにあった」が7.6%、「よくあった」が5.4%となっている。

一方、「なかった」は83.0%である。

図表 III-6 8 生活しづらい原因を取り除いてもらったと感じたことの有無



『あった』（「よくあった」＋「たまにあった」）の割合をみると、障害の程度別では1級が22.2%、年代別では就学期（5～17歳）が33.3%と割合が高くなっている。

図表 III-69 生活しづらい原因を取り除いてもらったと感じたことの有無
（障害の程度別/年代別）

| | | 回答者数 人 | よくあった | たまにあった | なかった | 無回答 | 『あった』 |
|--------|-------------|-----------|-------|--------|------|------|-------|
| 全体 | | 542 | 5.4 | 7.6 | 83.0 | 4.1 | 13.0 |
| 障害の程度別 | 1級 | 18 | 11.1 | 11.1 | 66.7 | 11.1 | 22.2 |
| | 2級 | 139 | 7.9 | 10.8 | 79.1 | 2.2 | 18.7 |
| | 3級 | 130 | 5.4 | 10.0 | 83.1 | 1.5 | 15.4 |
| | 手帳は持っていない | 233 | 3.0 | 3.9 | 88.8 | 4.3 | 6.9 |
| 年代別 | 就学期（5～17歳） | 9 | 0.0 | 33.3 | 66.7 | 0.0 | 33.3 |
| | 青年期（18～39歳） | 121 | 9.1 | 5.8 | 82.6 | 2.5 | 14.9 |
| | 壮年期（40～64歳） | 275 | 4.7 | 8.0 | 83.6 | 3.6 | 12.7 |
| | 高齢期（65歳以上） | 96 | 2.1 | 7.3 | 83.3 | 7.3 | 9.4 |

単位：%

『あった』＝「よくあった」＋「たまにあった」

以下は、『生活しづらい原因を取り除いてもらったと感じた』具体的内容（57件）の抜粋である。原文を基に一部要約し掲載している。

①相談体制、カウンセリング(12件)

- かかりつけ病院でのカウンセリングや友人に話し、原因を軽減してもらった。
- 自分が不安に思った事を一緒に確認してもらい、代わりにしてもらった。
- リワークプログラムへの参加により、認知や考え方のゆがみを修正することができ心が楽になった。

②医療機関、医療体制(8件)

- コロナ禍において、病院で直接面会できない時に Web 面会できる等になったこと。
- 薬の服用について医師に相談した。

③家族の理解、協力(7件)

- 対人がダメなので買い物などの外出や電話が難しく、電車移動も難しいので、全て妹に同行してもらった。

④周囲の理解、協力(6件)

- 友人等が行きたい場所へ車で連れて行ってくれたり、買い物の付き添いをしてきている。
- 学校での作業のしづらさをOT（作業療法士）から学んだ。苦手なことも訓練させてもらい、体験できた。

⑤職場の理解(5件)

- 仕事のストレスで体調が悪化したため、出勤日数を減らすなど配慮をもらった。

⑥生活環境の整備、工夫(3件)

- エアコンや換気扇の掃除など、また家具の転倒防止突っ張り棒の設置。緊急非常装置の設置。

⑦その他(16件)

- 障害年金を頂けたこと。
- 引越しさせてもらった。
- 通院にタクシーを使わせていただいた。

15. 自由意見

最後に、区の福祉施策などについて、ご意見やご要望をお願いします。

以下は、区の福祉施策などについてのご意見やご要望（総数 172 件）の抜粋である。原文を基に一部要約し掲載している。

①経済的負担と支援について(23 件)

- 障害等級認定を拡大して、障害年金を増やし、経済的に支えてほしい。そのうえで就労支援活動を支えてほしい。
- 病気のため仕事ができず、復帰できるかわからない。日常、利用しているお金の管理がむずかしい。体調の回復にともない、生活できるお金を福祉で守ってもらえるか不安。
- 物価の急上昇による生活費の不安がある。現状に即した年金手当の改定を望む。
- その他の病気（内科他）にかかったとき、3割負担は経済的に厳しい。障害があるため、医療保険に入れないので、他の病気になったときの医療全額を払うのに不安がある。

②施策、制度、サービスについて(23 件)

- 障害があってもなくても共に協力できる体制をつくってほしい。
- 手続きなど面倒でなく誰にでもわかりやすく、簡単に受けられる福祉サービスをお願いしたい。
- 基本的に自ら助けを求めなければならない状態のシステムだと思う。「自分が助けてもらわないと生きるのに難しい状態」を理解できない人は、身近な支援者がいなければ孤立する。
- 私はもともときょうだい児で、ヤングケアラー。普通の家庭だったら、精神障害にはならなかったと思う。きょうだい児やヤングケアラーへの支援が充実するといいな、と思っている。
- 今はまだ高校生ですが、卒業後の生活や将来の見通しが立っておらず大変不安。18 歳までとサービス内容も相談相手も変わり、引継ぎなどもないようなので、またイチから情報を集めて探してもらわないといけない。移行期の引継ぎ制度を作ってほしい。

③情報の発信について(13 件)

- もっと支援についてわかりやすくしてほしい。このアンケートで初めて知った支援があった。
- 区のサイトに、どんな支援があるのかまとめてあると良いと思う。トップページにバナーがあれば、そこをクリックして自分も受けられる何かがあるかどうか、探せる。
- 障害者の情報「あなたはこんな福祉が受けられる」のように色々なことを関連して知りたい。

④就労支援について(13 件)

- 働ける場所の情報。
- 仕事をしたいと考えてはいるが、実行できず現在に至るため、区で障害を理解してくれる会社等紹介を定期的にしてけると助かる。
- 精神疾患の人がPCなど勉強できる環境、就労に向けて支援してくれる機関が増えると良い。

⑤将来の不安について(13件)

- 親亡き後の生活の仕方、本人が病気や障害の程度を自ら理解して生活できる環境の維持、地域の中で生活していけることを望んでいる。
- 障害年金の申請と受理のハードルが高い。支援してくれる人が将来年とともに、いなくなるであろう不安、体調を崩さず、どう生きられるかの不安が日々ある。

⑥感謝(11件)

- いつも事務的になることなく、親身に制度の説明や手続きをしていただけてありがたく思っている。

⑦アンケートについて(10件)

- 福祉に関してあまり考えたことがなかったので、再確認出来て良かった。
- ただのアンケートで終わらず、施策に反映されますよう切に望む。

⑧相談体制、カウンセリング(10件)

- 話を聞いてもらえるカウンセリングみたいな場がほしい。
- 精神障害に詳しい相談窓口があるといい。

⑨区の職員、施設職員等の対応について(10件)

- 事務的ではなく、一人一人違うということを理解していただき対応してほしい。
- 知恵を絞り、アイデアを出し、提案する区役所であって欲しい。

⑩手続きについて(7件)

- 自立支援の手続きは2年に1度ですが、診断書を提出するのにお金がかかる。
- 手帳や自立支援医療の手続きで窓口に行かなくても更新ができるとありがたい。また、申請受付から発行までの期間が少しでも短くなると良い。

⑪生活環境の整備(3件)

- 地域活動支援センターへの送迎（自転車に乗れない）。

⑫その他(36件)

- 都営住宅などを一般の人より優遇してほしい。
- 独居の障害者に対して状況確認をしてほしい。介護事業所が関わっているからといって、任せきりにしないでほしい。
- 突然の発作や具合が悪くなった時、夜間対応してくれる窓口があると助かる。
- 入院や介助、介護を受けるレベルではなくても通院時に子どもの相手をしてくれる同行者等がいてくれるとありがたいと思う。